

第1学年 生活科 学習指導案

令和7年11月12日5校時

第1学年3組27名

授業者 柏木 由季

< 研究主題 >

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成 ~キャリア教育を通して~

< 第1学年の目標 > 【キーワード】

💡 自分の「好き」や「楽しい」、「得意」を見付け、自信をもって何事にもまずは挑戦する。

【好きやとくいをみつけよう / ちょうせんしよう】

❓ 今、何をするときか考え、それに一生懸命に取り組む。【いま、がんばろう】

👂 相手の話を聞いて、自分の考えをもち、それを自信をもって相手に伝える。【きいて / いった】

1 単元名 「きせつと なかよし あき」

2 単元の目標

・自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のきまりを守るなどについて気付いている。【知識・技能】

・秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見付け、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができる。

【思考・判断・表現】

・秋の自然物やそれらを使って遊ぶことに関心をもち、「秋を楽しむ遊び」に向けて計画を立てたり、すすんで触れ合い交流しようとしたりして、みんなで遊びや毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性等
夏から秋へ自然の様子の変化に気付く、多彩な木の実や葉の形や色などを生かした遊びができること、また、そのおもしろさに気付いている。 招待した人に応じた伝え方があり、喜んでもらうためには、適切な関わり方があることに気付いている。 自分たちが秋を楽しむことができたことや、「秋を楽しむ遊び」で園児を楽しませることができたことがわかり、友達や自分自身の成長に気付いている。	秋の自然物の特徴を生かしてどんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。 園児のことを思い起こして、計画を立てたり練習したりしようとしている。 招待した人に楽しんでもらえるように関わったり、楽しんでもらう方法を考えたりしている。 秋と自分たちの生活との関わりや、「秋を楽しむ遊び」での出来事を振り返り、友達と伝え合っている。	秋の自然物に関心をもち、その特徴を生かしてみんなで楽しく遊ぼうとしている。 おもちゃの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで触れ合い交流しようとしている。 自分たちの生活が、身近な自然や季節の変化に関わっていることや、みんなで遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。

本単元のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）💡🔪

秋を楽しむ遊びの交流会に向けて、友達と協力し、相手を意識して計画を立てたり、練習をしたりしながら、園児を楽しませたいという気持ちを高め、他者を楽しませる喜びとみんなで遊ぶ楽しさを実感する。

4 単元設定の理由

（１）教材観

秋は、木の実や落ち葉など、児童にとって魅力的な自然物が多く見られる。春や夏に季節を感じる活動をした経験を踏まえて、豊かな秋の自然を存分に体感させたい。自然の中で五感を使って全身的な活動をすることで、言葉や動作で表現することや、自然物を使って遊ぶことの楽しさに気付くことができるようになる。

さらに、自分の活動を発展させながら園児などとの交流を設定することによって、相手に合わせて適切に関わり、自分自身の言葉やふるまいを見つめ直して活動する実践的な力も育てたい。

（２）児童観

本学級の児童は、毎日、元気いっぱい体を動かす活動やものづくり、本を読むことを楽しんでいる。生活科の学習に対しても意欲的であり、自分のやってみたいことを積極的に伝えたり、「こうするといいかもしれない。」と活動をよりよくしようと工夫したりする姿が多く見られる。

これまでの自然と関わる活動では、春に校庭やどろんこ山で春の自然を探し、植物や動物への関心を高めてきた。また、夏には季節を生かした遊びを自分たちで考え、シャボン玉の大きさを競ったり、声を掛け合って同時に吹いたりするなど、友達と関わりながら遊びを楽しむ姿が見られた。こうした活動を通して、児童は自然の変化や季節の移り変わりを、全身を使って感じ取るとともに、周囲の人と楽しく関わる経験を積み重ねてきている。

本単元では、一人ひとりが「見つけた自然物で遊びたい」「何かを作ってみたい」といった思いを高めながら、友達の考えにも耳を傾け、協力して活動する経験を重ねていく。その中で、「どうすればもっと楽しくなるか」「どうすれば相手にも喜んでもらえるか」と考え、話し合いながら遊びや作品をつくり上げていく実践的な力を育てていきたい。また、自分たちの活動で周囲の人を楽しませたいという思いをもとに、相手意識をもって活動に取り組むことができるようにしていく。

意欲的に活動する児童が多く、学級全体での場面では、自分の考えを順序立てて伝えたり、理由を添えて発表したりすることが少しずつできるようになってきている。一方で、少人数グループでの活動になると、自分の気持ちが強く出てしまい、相手の意見を受け入れにくくなる児童や、「うまくできなかったらどうしよう」「苦手なことは避けたい」と感じて、挑戦をためらう児童の姿も見られる。

そのため、話し合い活動においては、教師が児童の気持ちや意見を代弁するなどの支援を行いながら、話すときや聞くときの手本を掲示するなどして、安心してやりとりできる雰囲気づくりを行っていく必要がある。

(3) 指導観

本単元では、身近な秋の自然（落ち葉、木の実、草花など）に親しみ、五感を通してその美しさや面白さを感じ取りながら、遊びや表現活動を生み出していく過程を大切にします。児童が自然の中で自らの興味や関心をもとに活動を始め、思いや願いをもって表現したり遊びを工夫したりする中で、他者と関わることの楽しさや意義に気づいていくよう支援する。

指導にあたっては、まず個々の児童が秋の自然にじっくり浸りながら、自分なりの発見や思いを表現できるような活動の場を工夫する。たとえば、「秋の宝物コーナー」や「ヒントコーナー」などを設け、児童が自然物と出会い、自らの気づきを見える形で共有したり、遊びの発想を膨らませたりできるようにする。また、材料や道具をすぐに使えるようにして活動への集中を支えたり、「お試しコーナー」などを設けて、作ったものを試行錯誤しながら改善したりしていく機会も保障する。

さらに、友達と協力して遊びを作ったり、思いを伝え合ったりする中で、他者のよさに気づく体験を積むことができるよう、「作戦タイム」「見て見て・聞いてタイム」などを設定する。友達の工夫や活動に気づき、認め合う経験を積むことによって、学びの喜びや協働の価値に気づいていく姿を育てていく。

また、活動の終盤では、児童が自分たちの作品や遊びを「誰に伝えたいか」「どう楽しんでもらいたいか」を考え、幼稚園や保育園の子どもたちとの交流など、相手を意識した活動へと発展させる。こうした活動を通じて、児童が人との関わりの中で自分の役割や思いの伝え方を学び、自己肯定感や社会性を高めていくことを目指す。加えて、活動を振り返る時間を大切に、自分の頑張りや友達のよさに気づき、人と関わることの楽しさや自分の成長を実感できるよう支援していく。

このような活動を通して、児童が自然に親しみ、他者と関わりながら自己を表現する力を育てるとともに、学びの楽しさを味わえるようにしていきたい。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 【すきやとくいをみつけよう / ちょうせんしよう】

思いや願いを大切に活動

まずは自分で秋の自然物でおもちゃ作りや遊び、飾り作りなどを楽しみ、満足感や達成感を得た後に、その楽しさを友達に伝えたり楽しませたりするための工夫をさせる。個人で落ち葉や木の実の素材や特徴を十分につかんだ上、他者に遊びの工夫を伝えることができるように試行錯誤する時間を十分に確保する。



考える力 【いま、がんばろう】

学習計画や学習内容の掲示

見通しをもって学習に取り組めるように、児童から出てきたイメージや言葉、そこから立てた計画の掲示を行う。自分のできたことを実感し、次時の活動につながるような写真、図書資料などの掲示を行う。



聴く・伝える力 【きいて / いった】

場に応じた友達との話し合い

話し合う相手を限定しないで、些細なことでも相談できるような時間、一つの目的に向かって話し合い決定するような時間など、活動に応じた話し合いができる場を設定する。「秋のもので遊びたい。」
「秋の宝物を使ったおもちゃで友達と一緒に遊びたい。」「自分たちで楽しみたい。」「園児に楽しんでもらいたい。」というそれぞれの活動に適した話し合いの仕方を意識的に設定する。

6 単元の指導計画・カリキュラムマネジメント（事前・事後指導の見通し） 本時（9 / 14時間扱い）

	小単元（時数） 【他教科】	学習活動	留意点	評価規準 キャリア教育の視点
	導入（1）	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で見つけた秋を紹介し合う。 秋について知っていることを伝え合う。 みんなでしてみたい秋の活動を話し合い、活動への見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然物に興味・関心をもてるように、事前に、教室にどんぐりや紅葉した葉、植物の図鑑や絵本などを置いておく。 ウェビングマップなどに整理しながら板書する。 	<p>夏から秋へ自然の様子の変化に気付いている。（発言）</p> <p>【思】秋の野原や公園の変化を夏の様子と比べながら考えている。（発言）</p> <p>【主】秋の野原や公園で、できる遊びを楽しもうとしている。（行動観察）</p>
	【学活】 楽しい遠足（1）	<ul style="list-style-type: none"> みんなで公園に行くときに気を付けなければいけないことを出し合う。 クラス遊びの計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師側が一方的に提示するのではなく、児童が考え、「自分たちで話し合ったルールだから守らなければならない」という気持ちをもてるようにする。 	<p>【思】公園に行く際に気を付けなければいけないことを考えている。（発言）</p> <p>【知】みんなが楽しむことのできる遊びを考えている。（発言）</p>
	あきをみつけにいこう（3）	<ul style="list-style-type: none"> 校庭や公園に出かけ、虫や虫のすみかを探す。 秋の草花や樹木などを観察し、季節の変化に気付く。 見つけた秋のことをカードに絵や文で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわりがもてるように、教師も一緒に遊びながら活動を支え、随時、諸感覚をはたらかせるような声掛けをする。 	<p>【主】秋の草花や樹木、虫などに関心を持ち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。（カード・行動観察）</p>
 	【国語】しらせたいな みせたいな（10）	<ul style="list-style-type: none"> 知らせたいものを丁寧に観察し、絵と文で表し、気付いたことを人に伝える文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の学習活動として、生活科の学習と並行して行う。 描いた絵から線を引き、観察して見つけた特徴を短い言葉で書く方法を知らせる。 	<p>【主】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。（カード）</p>

 	なにをかんじたかな(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋さがしをして感じたことや見つけたものを、友達に紹介したり伝え合ったりする。 ・これからどんな活動をしていきたいか考え、考えたことをクラス全体で話し合う。話し合ったことをもとに、今後何をしていくかクラス全体で決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋と遊んで楽しいな」「もっと秋を楽しみたいな」という思いをもてるように児童の活動を価値づける。 ・児童の発言を板書しながら整理し、活動の方向性をもたせることができるようにする。 	自分が見つけた秋の特徴や自然物と、友達とを比べながら、伝え合っている。(行動観察) 【主】 秋を楽しむ遊びに向けて、計画を立てようとしている。(発言)
 	見つけたあきであそぼう(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた木の実や葉でどんなことをしてみたいか考える。 ・集めた木の実や葉の特性を生かして、簡単な遊びを楽しむ。 ・素材遊びをした感想や気付いたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めたものを見せ合う時間を確保する。 ・同じ遊びをしている児童でグループを作ったり、机の配置を変えたりして、十分なスペースを作る。 	【思】 秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。(行動観察) 【主】 秋の身近な自然物を使って遊ぶことに興味をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。(行動観察)
  	見つけたあきでつくろう(3) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたいおもちゃを工夫して作ったり、改良しながら遊んだりする。 ・作ったもので友達と一緒に遊んだり、遊び方を工夫して楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の経験を引き出したり、教師からも作品や遊び方の掲示をしたりする。 ・教室の中に「材料コーナー」を設け、児童が試して遊び、自由に改良できるようにする。 	【知】 遊びのルールや約束を工夫すると楽しく遊べることや、友達のおもちゃには、自分のものと違うよさがあることに気付いている。(行動観察) みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。(行動観察)
	【国語】 どんなおはなしができるかな(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話をよく聞き、つながるように会話する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習活動として、生活科の学習と並行して行う。 ・教科書の「たいせつ」で、友達が言ったことをよく聞いて、話をつなげることを確認する。 	【思】 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(行動観察)
 	あきのたのしさをつたえよう(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児を招待するために必要なものを作ったり準備したりする。 ・遊び方やルールをグループで話し合ったり、試しに遊んでみたりして工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を立てる際は、児童の考えや発言をウェビングマップなどにして整理する。 ・小さい子が楽しめる工夫をしている姿を認めたり紹介したりして、相手意識をもって準備するようにする。 	招待したい人に応じた伝え方があることに気付いている。(行動観察) 【思】 これまで園児と接したことを思い起こして、計画を立てたり練習したりしようとしている。(行動観察)

	みんなであきをたのしもう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と一緒に遊びを楽しむ。 ・活動を振り返り、楽しかったことや嬉しかったことを、友達と伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行を児童に任せながら、必要に応じて支援し、一人一人のよさを認めたり、伝えたりしながら、達成感や自信をもてるようにする。 	招待した人に楽しんでもらえるように関わったり、楽しんでもらう方法を考えたりしている。(行動観察) 【主】 園児とすすんで触れ合い、交流しようとしている。(行動観察)
	なにをかんじたかな(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を振り返る。 ・活動について、感じたことや考えたことを友達と伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動への充足感を味わったり、自分の成長を感じたりできるように、感じたことや気付いたことを、友達と伝え合う時間を確保する。 	【知】 自分たちが秋を楽しむことができたことや、園児を楽しませることができたことが分かり、友達や自分自身の成長に気付いている。(発言) 秋と自分たちの生活との関りや、園児との触れ合いを振り返り、友達と伝え合っている。(行動観察)

8 本時について(9/14時間)

(1) 本時の目標

友達と自分の考えを比べたり、友達の作っているものを参考にしながら試したりして、集めた様々な自然物を使ったものや遊び方を、更に工夫できる。

本時のキャリアの目標(集団の中で自己を生かせるように)

秋を楽しむ遊びの交流会に向けて、友達と協力し、相手を意識して相談したり、作ったりしながら、園児を楽しませたいという気持ちを高める。

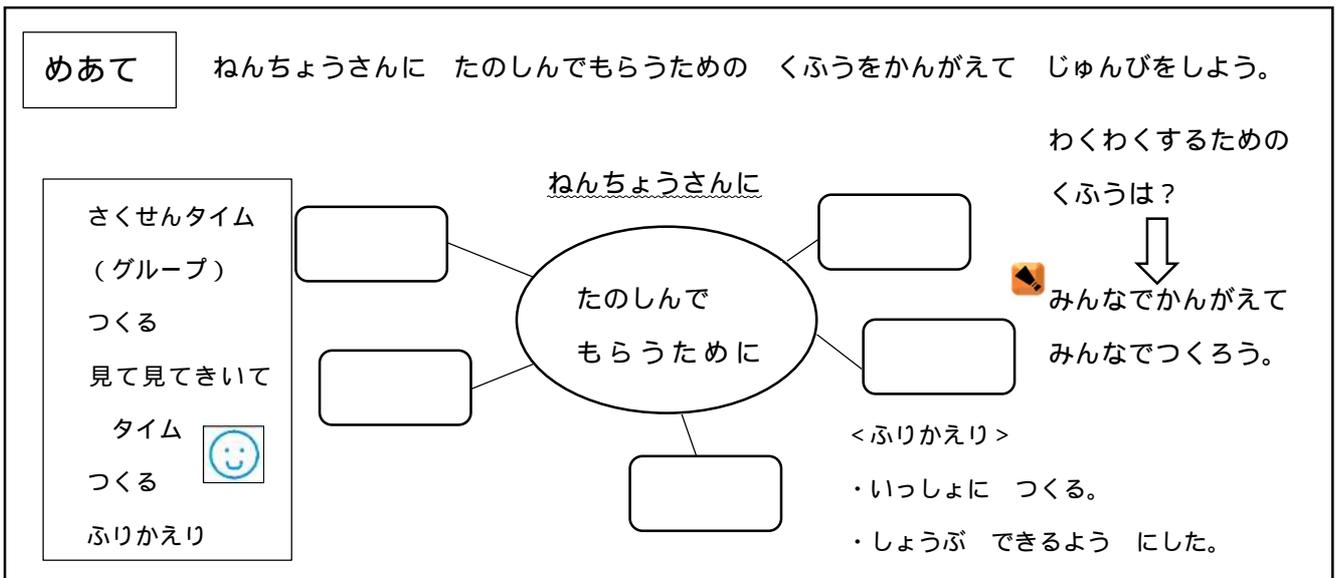
(2) 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準(評価方法) キャリア教育の目標に迫るための手立て
つかむ	<p>1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるようなものがいっぱいできた。 ・まだ「秋の宝物」がいっぱいあるから、何か作れそう。 <p>○今日は、小さいお友達を招待して会を開くためにどのような工夫ができるのか考えて、秋の宝物をもっとわくわくするものに変身させましょう。</p>	<p>ねんちょうさんに たのしんでもらうための くふうをかんがえて じゅんぴをしよう。</p>

探る	<p>2 グループごとに集めた自然物でどんなものができるか話し合い、おもちゃや飾るものを更に作ったり改良したり、遊び方のルールを工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【活動の流れ】 グループで話し合う（作戦タイム） 作る 見せ合う（見て見て聞いてタイム） 作る 振り返り</p> </div> <p>自分も相手も楽しい遊びに変身させるために、グループで作戦を立てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に葉っぱを並べて絵が描けそうだよ。 ・どんぐりや松ぼっくりに目を付けて並べたらかわいいね。作り方を教えたいな。 ・葉っぱの中に点数を書いたどんぐりを入れたら宝さがし競争ができるね。 ・どんぐりゴマを作って、勝負をしたら楽しそう。 ・どんぐりを使った楽器を作って演奏会をしてみない。 <p>作戦を基に、宝物を変身させましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱを魚にして魚釣りで、点数を付けたら面白くなるかも。 ・秋を集めたメダルや冠で景品がつくれそうだ。 ・他のグループは、どんな風を作っているんだろう。 <p>違うグループの様子を見て、宝物をもっとわくわくさせるためのヒントをもらったり、あげたりしましょう。</p> <p>ヒントを使って、宝物を更に変身させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱでお面を作ってみんなでかぶったら面白そう。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しがもてるように、手順を掲示する。 ・前時に作りたいものを付箋（黄）に書かせておき（前時）グループで話し合う際には、ホワイトボードを見ながら意見交流を行うことで、活動内容を明確にする。 ・「材料コーナー」「道具コーナー」「ヒントコーナー」を設定することで、困ったときにはそれぞれのコーナーを活用させることで、活動に浸り作りたいという意欲を高める。 ・個人のみ活動にならないように、グループ同士で「見て見て聞いてタイム」を設け、情報交換ができるようにする。 ・工夫しているところを見つけたら、その場でグループのメンバーに伝え共有させる。 <p>みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。【知】（行動観察） 園児を楽しませたいという気持ちを高めるために、「作戦タイム」と「見て見て聞いてタイム」を設定する。</p>
----	--	--

<p>まとめ</p>	<p>3 本時の活動を振り返りと片付け、次時の活動を確認する。</p> <p>どんなものや遊びに変身させられましたか。小さなお友達が、わくわくするものになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一緒に作れるコーナーを作って楽しんでもらえるようにしたよ。 どんぐりゴマで勝負ができるようにしました。 遊んでもらう人にレベルを選んでもらうように工夫しました。 来てくれた人に、秋の宝物で作ったものをプレゼントしたいな 壁や窓に飾り付けをするともっとわくわくすると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなところを工夫したら、わくわくするようなものになったかを振り返らせ、全体で共有することで、達成感や満足感を味わわせる。 友達の頑張りやよさにも目を向けさせることで、みんなで一緒に作っていくことへの期待感を高める。 招待する人を意識して作ったことやアドバイスをしてもらって嬉しかったことを感想に書いている児童を取り上げ、さらにわくわくするものを作りたいという次時への意欲につなげる。
------------	--	--

(3) 板書計画



9 授業観察の視点

- ・話し合いの時間を2回設定したことが、児童にとって園児を楽しませたいという気持ちを高めることに有効だったか。
- ・同じアイデアをもっている友達同士で交流することに加え、別のアイデアをもつ友達と交流する時間を設定したことは、友達と自分の考えを比べたり、作る時の参考にしたりすることに効果的だったか。

第2学年 生活科 学習指導案

令和7年12月10日 5校時

第2学年 3組 26名

授業者 山岡 亜美

< 研究主題 >

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

< 学年の目標 > 【第2学年のキーワード】

 自信をもって取り組むことができる。

【すきをふやそう】

 周りが何をしているか理解をして行動することができる。

【アンテナをのぼそう】

 周りの意見を受け止めることができる。

【きゅうしゅうしよう】

1 単元名 「作って ためして」

2 単元の目標

動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したりすることができ、身近なものを使ってできる遊びのおもしろさ、自然の不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具や用具の準備の片づけ、整理整頓などをすると気持ちよく遊べることに気付き、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近にあるものを使って、動くおもちゃを作る活動を通して、遊びのおもしろさ、自然の不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具や用具の準備や片づけ、整理整頓などをすると気持ちよく遊べることなどに気づける。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びが楽しくなるように工夫したりしている。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、みんなで楽しい遊びを創り出そうとしている。

本単元のキャリアの目標  

うまくいかないときも、友達と意見を伝えあいながら、よりよくしていこうと挑戦し続ける力を育てる。

4 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元で扱う内容は、学習指導要領第3章第2節内容(6)(8)に基づいて構成されている。

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫することができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、すすんで触れ合い交流しようとする。

本単元は動くおもちゃを「作る 遊ぶ 改良する」という過程を経験する中で、児童が自分の考えを比べたり、試したりしながら工夫を重ねることを自然に促す教材である。遊びの過程で、「もっとしたい」という願いの実現に向けて身近な材料を使い、動きの仕組み（風・ゴム・傾き・転がる・跳ねる等）を「見付ける、比べる、たとえる」などの分析的に考える学習活動をしたり、「試す、見通す、工夫する」などの創作的に考えたりし、思いつきを形にしていくことができる学習である。また、友達同士で試し合うことによって、自分にはなかった視点に触れたり、気づいたことや考えたことを他者に伝え合うことで気づきが確かになったり気づきが関連付けられ、学びが広がるだろう。自分達で動くおもちゃを作ることで、それを作るために必要な材料は何か、身の回りの自然物や身近な物への意識が変わる。そして、もっと楽しくなるように材料を組み合わせながら、粘り強く工夫を繰り返す中で、より、こだわりをもってそれらに関わろうとする力が育つと共に、できたおもちゃを“誰かに遊んでもらう”という活動につながりやすく、下学年への説明や相手意識を育てる活動とも親和性が高い教材である。

(2) 児童観

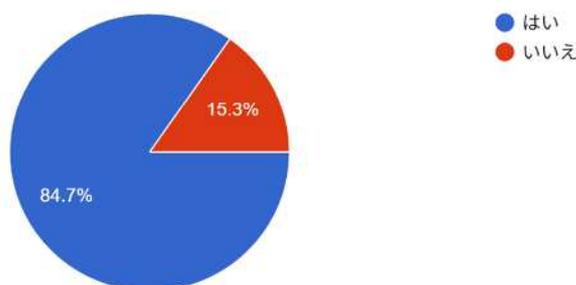
本学級は友達との協力や相談が好きで、活動を共に進めることに意欲のある子が多い。この学年は1年生の時に2年生が作ったおもちゃを使い遊んだ経験があり、「下の学年に喜んでもらいたい」という関わりへの期待感をもつ児童も多い。そのため、どのようなものを作ればよいかは考えることはできだろう。幼小連携で園児への説明や案内に取り組んだ経験から、相手に合わせて伝えようとする姿勢が育ちつつある。おもちゃ作りを通し、1年生との交流をすることで、遊びの説明の仕方やおもちゃの扱い方を考えさせたい。

1学期、生活科の学習で「学校探検」を行った。入学して間もない1年生に向けて教室の表示をどのような文章にするか、1年生に向けて説明を工夫し学校の周り方を考え練習を行った。学校生活に慣れてきた1年生へどのように伝えていくか「学校探検」の経験を基に関わり方を考えさせていきたい。

図画工作科では、材料を基に考え工作することが得意な児童が見られるが、一方で、何を作ればよいか迷い、活動の手が止まる児童も見られるため、工作は好きか質問をした。

こうさくは好きですか。

72 件の回答

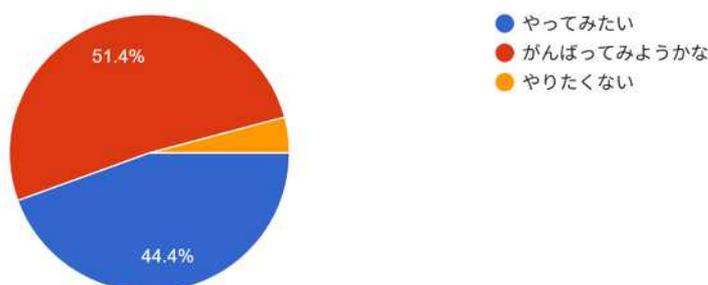


学年全体の 15% が苦手だと答えた。その為、おもちゃづくりを苦手だと感じる児童も出てくるだろう。一人で考えるのではなく、友達と相談させながら活動をさせていきたい。

国語科の学習「そうだんにのってください」の学習では友達の相談にのり解決方法を皆で考えた。自分事として受け止め相談にのることができていた。アドバイスをあげる機会が無かった児童もこの学習でアドバイスの伝え方を理解しただろう。

友だちにアドバイスをあげるきっかけがあればつたえたいですか？

72 件の回答



その結果やってみたいと頑張ってみたいとい向上心が見えた一方、やりたくないという思いをもつ児童もいた。理由に恥ずかしいからや伝わらないからという理由を上げており、アドバイスを挙げる機会を与えると共に話型を提示し伝わらない困り感を解消していきたい。

この単元を通して、身近なものに触れ、試し、工夫、交流をすることで、多くのものが作れることを理解すると共に友達や下学年との関わり方、身の周りの物を使うことについて考え、伝えることの大切さについて気づかせたい。

(3) 指導観 (教師の願いと指導の工夫)

本単元では、身近なものを使って動くおもちゃを作り、試し、工夫する活動を通して、自分の思い

を形にしていく充実感を味わわせたい。また、友達に動かしてもらったり意見を伝え合ったりすることで、新しい視点に気付き、よりよくしようとする改善の姿勢を育てたい。さらに、最終的に1年生に遊んでもらう活動につなげる中で、「どうすれば相手を楽しめるか」「どう説明すれば伝わるか」を考える相手意識をもった関わりを育てたい。

子どもが、うまくいかない時にも試行錯誤を続けながら、友達や下学年とのかかわりの中で自分の役割や思いを見付け、自分なりの工夫を生み出していく姿を目指していく。

教科横断的な学習として主に、国語科の「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の学習と関連させて行う。国語科では、紙コップ花火の「作り方や遊び方」を順序よく説明する力を育成する。児童の実態から、本単元では、説明する内容を「作り方」だけに絞って行い、次単元の「おもちゃの作り方をせつめいしよう」で、「作り方と遊び方」を説明する。活動が容易になるよう段階を分け、繰り返して行うことで、支援の必要な児童にも容易に活動が行えるようにしたい。国語科や図画工作科で身に付けた力を活用しながら、更におもちゃを作り遊ぶ体験を繰り返し行う中で、知識や技能の習得を深めていきたい。

本単元内の「うごくおもちゃをつくろう」では、自分でおもちゃを作り、自分で動かし、改良したいところを見つけ友達に相談しながらおもちゃの改良をさせたい。タブレット端末を使い実際に遊んでいるところの動画を撮影し記録に残すと共に、自分のおもちゃのよいところ、より良くしたいところを見つけさせたい。友達が作ったおもちゃで遊んだり、友達の相談を受けたりしながら、自分のおもちゃに取り入れられそうなもの見付け改善を図らせたい。

「みんなのおもちゃであそぼう」では、同学年で遊ぶのはもちろん1年生を招待し、下の学年との関わり方や伝え方を理解させていきたい。どのようにすれば1年生は喜んでくれるか、相手意識をもたせながら活動に取り組ませたい。おもちゃで遊んで終わりにするのではなく、国語科「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の単元を生かし、1年生でも分かりやすい文章を考えながら説明書を書かせていきたい。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 すきをふやそう

場の工夫（作りたいものを見つけやすくするための支援）

素材遊びを通して興味・関心を喚起し、おもちゃづくりに向けた意欲を高める。また、本やインターネット等の資料を活用し、児童が使用したい動力や仕組みを自ら調べ、選択できるような環境を構成する。これにより、児童一人一人が「作りたいもの」を主体的に構想しやすくし、自己の思いや考えを明確にすることにつなげる。

ワークシートの工夫（自分のよさに気付くための支援）

小さな成功体験を積み重ねて振り返ることができるよう、授業の終末に「できたよ貯金」へ記入する活動を位置付け、自己効力感を高める。また、工夫したこと次に頑張りたいことを継続的に書き留めるワークシートを用いることで、次の行動の見通しをもたせるとともに、友達と交流する際

の手がかりになると考えた。



考える力 アンテナをのばそう

見通しをもたせるための工夫（掲示・目標の可視化）

・児童が学習の最終到達点を理解し、自分の成長を意識できるよう、クラス全体で意見を出し合いながら最終目標を設定する。設定した目標を教室に掲示し、活動計画を立てる際の指標とすることで、児童が学習の方向性を見通せるようにする。目標の達成度や学習の進行を可視化することで、挑戦の過程を自覚させ、友達と意見を交換しながら目標に向かって努力する姿勢を育てる。

思考錯誤を持続させるための工夫（場の構成）

- ・試行錯誤を繰り返し行えるよう、十分な時間・場所・道具を事前に確保する。児童が挑戦に立ち向かう過程で、友達と意見を伝え合いながら改善を続けられるよう、学習場面を意図的に設定する。これにより、児童が「うまくいかないときも工夫を続け、仲間と協力しながらよりよくする」力を実感できるようにする。
- ・必要な材料や道具を児童がすぐに手に取れるように配置し、活動中に思考や工夫が途切れない環境を整える。



聴く・伝える力 きゅうしゅうしよう

友達に伝える力を育てる工夫

児童の思いや願いに基づいたグループを編成し、自分の作ったおもちゃに込めた思いや工夫などの意見を送り合う活動を設ける。この過程を通して、児童は相手の意図を理解し、自分の考えを伝えながら改善を図る姿勢を身に付ける。

色分け（ピンク＝よいところ、青＝アドバイス）を用いた交流の場の工夫

児童が友達の意見を区別して受け止められるよう、よいところはピンクの付箋、よりよくするための助言は青の付箋に書くようにした。色によって意見の性質が視覚的に整理されることで、児童は安心して他者の評価を受け止めることができる。また、まずピンクの付箋を読み、自分の工夫や頑張り認めたいところで青の付箋にある助言を参照することで、自分のよさを基点に改善点を考える姿を促すことができる。このような交流の流れにより、友達と意見を伝え合いながら自分の活動をよりよくしようとする意欲が高まり、人間関係形成能力の育成につながると考える。

6 キャリア教育の目標に迫るための事前・事後指導の見通し（カリキュラムマネジメント）

教科（時数）	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿（評価方法）
生活科 えがおのひみ つたんけんた い	<ul style="list-style-type: none"> ・質問を考える。 ・話を聞きに行く。 ・聞いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考え質問を考えさせる。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して自分の考えを伝えたり、人の話を聞いたりすることができる。（発言・記述）
国語科 ことばでみち あんない	<ul style="list-style-type: none"> ・道案内を聞いて目的地を考える。 ・道案内の仕方を考える。 ・道案内をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい順序・目印・特定物を伝えること押さえる。 ・道案内の言葉を中心にメモをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい道順を分かりやすく伝えることができる。（発言・記述）
国語科 そうだんにの ってください	<ul style="list-style-type: none"> ・相談する話題を考える。 ・話し合いの進め方を確認する。 ・グループで話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方、話し合う時に大事なことを、話をつなげる言葉を確認する。 ・順番に相談者になり話し合いを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談にのり、自分の考えを伝え、友達の相談を解決しようとするができる。（発言・記述）
国語科 紙コップ花火 の作り方	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見ながらおもちゃづくりをする。 ・作り方を分かりやすく伝えるための工夫を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で伝えた方が分かりやすいのか、写真で伝えた方が分かりやすいのかを考えさせる。 ・順序を伝えるときの言葉を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方を確認し、説明どおりにおもちゃを作ることができる。（観察） ・筆者の工夫について見つけることができる。（記述）
生活科 みのまわりの ものであそぼ う	<ul style="list-style-type: none"> ・材料でどんな遊びができるか予想する。 ・素材で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紐と輪ゴムを比べて違いに気付かせる。 ・輪ゴムを飛ばす方向に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの素材を使って、遊びにできることに気付くことができる。（記述）
生活科 うごくおもち ゃを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたいおもちゃの計画を立てる。 ・動くおもちゃを作る。 ・作ったおもちゃで遊ぶ。 ・友達の困っていることにアドバイスを伝える。（本時） ・おもちゃをパワーアップさせる ・改善点を生かしてパワーアップさせる。 ・作戦を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を種類ごとに分けておく。 ・人に当てない、道具を持って歩かないなど約束事項を確認する。 ・自分で試して改善点を見付けさせる。 ・似ている素材で作ったおもちゃ同士でアドバイスを送り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを試行錯誤しながら作ることができる。（観察） ・友達と情報を共有して、自分のおもちゃをよりよくしたいという願いをもって作ろうとしている。（観察・記述）
生活科 パワーアップ 大作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・違う素材のおもちゃからアドバイスを貰う。 ・貰ったアドバイスから改良を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のおもちゃで遊んでよいところ、改善点を見付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもっておもちゃを改善することができる。（観察・記述）
国語科 おもちゃづく りをせつめい しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の順序を考える。 ・おもちゃの作り方を説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方、楽しみ方を書く。 ・説明の内容がかぶらないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ったおもちゃを分かりやすく説明することができる。（記述）

生活科 みんなのおもち ちゃであそぼう	・グループごとに友達のおもちちゃで遊ぶ。	・友達が作ったおもちゃを大切に扱わせる。	・ルールを守り、片づけや整理整頓をすることができる。(観察)
生活科 1年生を招待しよう	・1年生に喜んで貰えるように準備できることを話し合う。	・1年生の立場になって考えさせる。 ・クラスで遊んだときの反省点を出す。	・遊ぶ相手を考えながらルールを変えることができる。(発言・記述)
生活科 1年生と遊ぼう	・1年生を招待しておもちちゃで遊んでもらう。	・1年生に伝わる説明を考えさせる。	・他学年とも仲良く遊ぶことができる。(観察)
生活科 なにをかんじたかな	・単元の振り返り ・単元を通してできるようになったことを考える。	・振り返りの視点を与える。	・自分の取り組みや友達との関わりについて振り返ることができる。(記述)

7 単元の指導計画

時	目標	学習活動	評価規準(評価方法) キャリア教育の視点
1	身近なものが遊びに利用できることに気付き、動くおもちゃを自分で作って、みんなで遊びたいという意欲をもつことができる。	・例示のおもちちゃでどんな遊びができるか予想する。 ・おもちゃがどんな材料でできているか調べる。	【知】身近なものが、さまざまな遊びに利用できることに気付いている。
2	 素材の特徴を生かし、目に見えない力、動きのおもしろさに気付き、遊びを楽しくすることができる。	・材料でどんな遊びができるか予想する。 ・素材で遊ぶ。	【思】素材の動きを予想したり動きを比べたり、ともだちと競ったりしながら遊んでいる。 【主】何度も動きをためして、遊びを楽しくしようとしている。 素材遊びを通しておもちゃを作りたいという気持ちを高めることができる。
3 ~ 8	  おもちちゃの動きを繰り返し確かめながら作り、おもちゃが動く仕組み、材料の組み合わせに気付き、よりよくしたいという思いを持つことができる。	・作りたいおもちゃの計画を立てる。 ・動くおもちゃを作る。 ・みんなで遊ぶ。	【知】おもちゃが動く仕組み、材料の組み合わせに気付いている。 【思】おもちゃの動きを予想したり確かめたり、見直したりを繰り返しながら、おもちゃ作りをしている。 自分たちはどこを目指すのか意見を出し合い、最終到達点を決めることができる。 友達から貰ったアドバイスを受け止めて自分のおもちちゃに生かせそうなものを選ぶことができる。
9	 情報を交換し合って自分が作ったおもちゃを見直し、動くおもちゃには、材料や働く力が関係していることに気付き、よりよいおもちゃを作ることができる。	・遊んだ活動を振り返る。 ・課題を共有して改善を考える。	【主】友達と共有した情報を生かしてよりよくしようとしている。

10 ~ 13  	試行錯誤を繰り返しておもちゃを改良し、力と動き、材料との関係に気付き粘り強く遊びを創り出そうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃをパワーアップさせる ・改善点を生かしてパワーアップさせる。 ・作戦を振り返る。 	<p>【思】友達と比べたり、動きを繰り返したり、乗り物に見立てて飾り付けをしたりしながら、おもちゃを改善するために使う材料、道具などを選んでいる。</p> <p>【主】みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。</p> <p>友達から貰ったアドバイスを受け止めて自分のおもちゃに生かせそうなものを選ぶことができる。</p>
14 ~ 19	友だちのよさや自分との違いを取り入れ、約束やルールを守って友達と一緒に遊ぶと楽しいこと、適切な道具の使い方、準備や片づけに気付き、遊びを楽しくできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃで遊ぶ準備をする。 ・おもちゃで遊ぶ ・振り返り 	<p>【知】片づけや整理整頓をしている。</p> <p>【思】遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。</p>
20	遊びを工夫し、友達と楽しく遊んだことを振り返り、自分と友達のおもちゃのよさに気付き、身のまわりのものを使ってみんなで遊ぶ工夫をして、生活を豊かにすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返り ・単元を通してできるようになったことを考える。 ・活動を見通す。 	<p>【主】身の回りの物を使って遊んだり、みんなで遊んだりすると生活が楽しくなることを実感し、これからの生活でも取り入れ毎日の生活を豊かにしようとしている。</p>

8 本時について (6/20 時間)

(1) 本時の目標

友達と情報を共有して、自分のおもちゃをよりよくしたいという願いをもつことができる。



本時のキャリアの目標 (集団の中で自己を生かせるように)

友達と意見を交換し、相手の考えを受け止めながら、自分のおもちゃをよりよくするための方法を見つけ、挑戦しようとする事ができる。

(2) 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準 (評価方法) キャリア教育の目標に迫るための手だて
導入	0 同じ素材同士で遊ぶ。(4 時間目) 1 学習計画の確認。 今日はパワーアップに向けて、ステップ 3 をやって行きましょう。	<p>同じ素材で同じ願いをもっている児童でグループをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいる時に友達の良いところ、改善点を見つけながら遊ぶ。 ・おもちゃを大切に扱うことを確認する。

	<p>2 前時の振り返り 自分で、おもちゃを作ってみて頑張ったところはありますか。 ・飛ばせるようにした。 ・得点を付けた。 ・動くようにした。 おもちゃをパワーアップしたいところありますか。 ・早く動かしたい。 ・もっと飛ばしたい。 ・面白くしたい。</p>	<p>作ったものを見返して、工夫したところ改善したいところをプリントで見返す。</p>
<p>友達とおもちゃをパワーアップさせよう。</p>		
<p>展開</p>	<p>3 友達のおもちゃにアドバイスを送る 友達にアドバイスやよいところを伝えましょう。 ・ここが面白い。 ・どうやって作ったの。 ・ゴムを太くしてみるのはどうか。</p> <p>4 アドバイスを選び、改良する 友達から貰ったアドバイス、友達のよかったところをおもちゃにいれてみましょう。 ・できるように する。 ・こうしていたから私のおもちゃにも入れてみたい。</p>	<p>・4時間目に遊んだことを想起させる。 ・国語科「そうだんにのってください」の学習を想起させ、相談にのらせる。 ・改善点だけでなく、よかったところも伝える ・伝える書き方を提示する。 ・優しくおもちゃを触るように指導する。 よい意見はピンクの付箋アドバイスは青の付箋で色分けをする。 友達と情報を共有して、自分のおもちゃをよりよくしたいという願いをもって作ろうとしている。【主：記述/観察】</p> <p>・アドバイスでわかったらすぐに生かす。分からないときはアドバイスをもらった人に聞きながら作る。 ・友達の案の中から使えそうなものを選ばせる。 ・案を出してくれた友達に相談をしながら作製する。 友達のアドバイスや自分で見つけたことをおもちゃ作りに取り入れようとしている。【思：記述】</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 振り返り・次回の見通し ○友達から貰ったアドバイスから、次の時間にはどんな直しをするか決めましょう。 できたよちょきんにできたことを記入しましょう。</p>	<p>・友達からのアドバイスを次回に取り入れさせる。 ・自分で見つけた工夫できる場所を次回の見通しとして考えさせる。</p>

(3) 板書計画

自分のおもちゃでがんばったところ

- ・しっかり動くようにした。
- ・飛ばせるようにした



自分のおもちゃをパワーアップしたいところ

- ・早くうごかしたい。
- ・もっと遠くまで飛ばせるようにしたい。

友達とおもちゃをパワーアップさせよう。

友だちからもらったアドバイス

9 授業観察の視点

- ・同じ素材で同じ願いを持っている児童でグループ化したことはアドバイスを送りやすかったか。
- ・付箋を用いた交流をしたことは友達と意見を伝え合いながらおもちゃをよりよくしようとする意欲が高まったか。

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年7月2日 5校時

第3学年2組 26名

授業者 川野 由紀子

<研究主題>

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成 ~キャリア教育を通して~

<第3学年の目標>【キーワード】

-  自分事として考える【自分事として】
-  めあてを意識して振り返る【めあてをいしき】
-  相手とつながる【つながる】

1 単元名 ひまわりプレゼントプロジェクト
~みんなをえがおにしよう~

2 単元の目標

- ・ ひまわりの種をプレゼントする活動を通して、学習課題の立て方や探究の方法、表現の方法について理解を深める。【知識・技能】
- ・ 自分を支えてくれる人について考え、ひまわりの栽培方法や手入れの仕方を調べ、相手意識をもってプロジェクトに臨むことができる。【思考・判断・表現】
- ・ ひまわりを栽培し、種をプレゼントする活動の中で、自分なりの課題を進んで探究し、役割を果たして相手が喜ぶプレゼントにしようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元のねらいに合わせて、学習計画を立てることを知る。 ひまわりの特徴や栽培方法について理解することができる。 自分のまわりにはたくさんの方がいて、自分が支えられていることに気付くことができる。 学習したことや自分の思いを相手に伝えるようにまとめる表現方法を知る。	ねらいの達成にむけて、一人一人が自分なりの課題を見付け、探究することができる。 自分を支えてくれている人について考えることができる。 友達の表現方法のよさを見つけたり、自分なりの方法で学んだことや思いを工夫したりして表現することができる。	プロジェクトのねらいや活動を理解し、成功させようと自分なりに前向きに取り組むこと。 設定した探究課題に向けて粘り強く探究する。 読み手を意識して、学んだことや思いを表現しようとする。 相手意識をもち、進んで種のプレゼントの準備に取り組む。

キャリア教育の目標

自分を支えてくれている人の存在に目を向け、相手に気持ちが伝わるようにひまわりの種のプレゼントを準備する。

自分なりの方法で調べたことや思いを表現する。

3年生の子供たちは、今年度から総合的な学習の時間に取り組み、学習の仕方は上学年の学習にも影響するため、今後につながる土台をつくっていきたい。

< 3年の総合的な学習で指導したいことと本単元での扱い >

○問いをもとに探究し続ける活動であること

子供たちには、「総合的な学習の時間」は、自分たちで学ぶことを決めて進めていく教科であることを指導し、単元の初めに学習計画を立てさせた。ひまわりの種を収穫して配るという目的のためにどんな活動が必要になるかを考え、短冊に書いて計画をつくった。

○振りかえりや軌道修正の必要性

めあてを立てて活動して振り返り、その結果で活動の軌道修正を行うことを意識させたい。必要な時間の確保や課題追究にかかるためにかける時間を見直させることで、キャリアプランニング能力を伸ばしたい。

○学んだことや思ったことを表現できること

学んだことや自分の考えを表現するために、タブレットなどで調べ学習をまとめることが多いだろう。しかし、3年生段階では、調べたことをまとめる経験が乏しい上、インターネットの検索だけでは十分に理解できない。めあてを絞ったまとめ方に取り組み、まとめの意義を理解したり伝え相手意識をもたせたりしたい。

4 単元設定の理由

(1) 題材について(「人とのつながり」を意識させる指導における価値)

本単元では、ひまわりを栽培し、収穫できる種を集めてプレゼントするという活動を設定する。この活動には本年度の重点である「人とのつながり」を意識させることができる良さがある。

お世話になった人とつながる

ここでは、自分たちで栽培した花の種をお世話になった人にプレゼントすることを活動の目的にする。

まず、自分たちが数か月かけて大事に栽培したひまわりの種をプレゼントすることで、単純に種を配るよりも思い入れができ、プレゼントの価値をより高められると考えた。また、「お世話になった人にプレゼントする」という対象を設定することで、自分のまわりにいる人々に目を向け、相手との関係を見直すことができると考えた。

この活動を通して、自分がいろいろな人に支えられていることや、相手に喜んでもらいたいという活動への意欲を引き出したいと考えた。

グループの友達とつながる

種をまく学習開始時点から、グループで活動に取り組む。グループは4～5人のグループ(全6班)を1グループとして栽培からプレゼントを渡すまで同じメンバーで活動する。総合的な学習の時間では、各自の探究活動や表現活動を充実させる必要がある。しかし、初めての単元であるため、グループでの活動を基本とし、一人一人の探究活動は分担された活動や調べ学習で確保する。

グループの友達に考えをはっきりと話せることや、コミュニケーションを取りながら協働作業を進められることから初める。

読み手とつながる表現力の育成

3年生になったばかりの子供たちは、本やインターネットで調べたことをまとめる作業も初めてである。ここでは、読み手を意識したまとめ方を指導する。

当初は調べたことを自分なりにメモすることから始め、次第に内容ごとに見出しを付けてまとめたり、友達と書く内容が被らないように調整したり、より効果的なまとめ方を模索できるようにすることを目指して段階的に指導する。

(2) 児童観

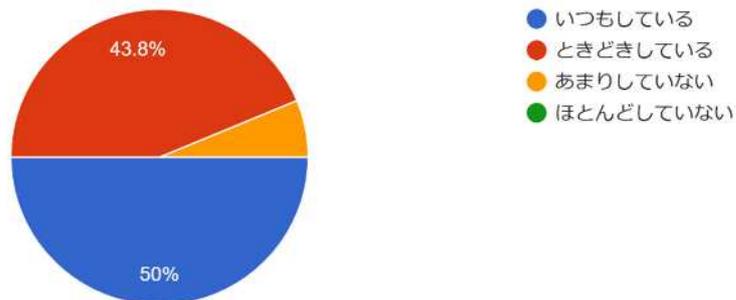
低学年から進級してきたばかりの子供たちは明るくてとても素直である。しかし、総合的な学習の時間は児童にとって新たに出会う領域であり、未だ自分で探究課題を見つけたり、探究した結果をまとめたりする経験は乏しい。総合的な学習の時間のスタートを切るにあたり、子供たちが主体的に活動できるように指導したい。

アンケートの結果から

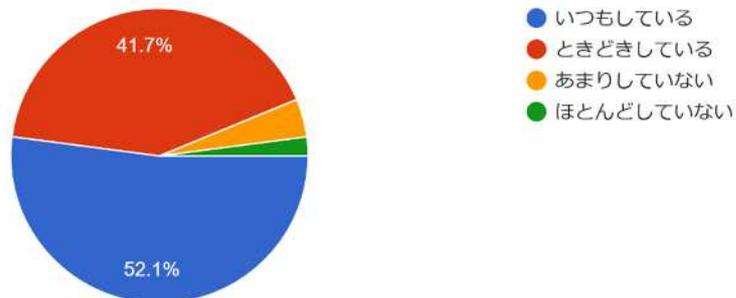
実施日：6月上旬

対象：第3学年児童

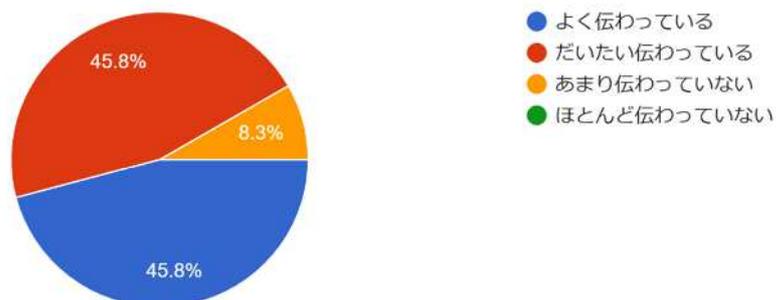
Q1 友達や先生、家ぞくの意見を聞くと、その人の気持ちや考えを「なるほど!」と受け止めようとしていますか。



Q2 友達や先生、家ぞくに、自分の言いたいことや思っていることを、相手が「うん、わかった!」となるように、考えて話そうとしていますか。



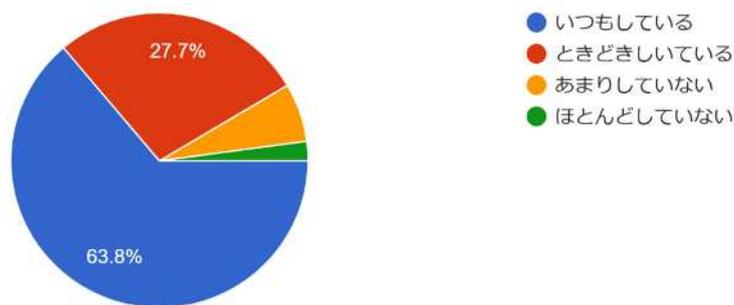
Q3 考えて話したことは、相手に伝わっていますか。



Q2の結果から、半数以上の児童が、相手が理解できるように工夫して思いを伝えようとすることを「いつもしている」と感じていることが分かる。一方、Q3のそれが伝わっているかという問いに対しては、「あまり伝わっていない」と感じている児童が多くおり、伝えるための表現力や技能がまだ身に付いていないということが分かる。

そこで本単元では、「お世話になった方々とのつながり」「グループの仲間とのつながり」などといった「人とのつながり」を児童に意識させ、周りとのつながりを厚くしていく。お世話になった方々にチラシを作成する作業においては、ひまわりの種をプレゼントする相手のことを考え、どのようにすれば読み手に自分達の思いが伝わるかを考えながら作成させることで、伝えるための表現力を育成したい。さらに、グループでの協働作業を通して、相手の気持ちや考えを受け止めようとするだけでなく、「相手に伝える」ことを意識させ、グループの友達とのコミュニケーションを取りながら活動を進められるようにする。

Q4 自分から「これやろう!」とやくわりを見つけたり、「じゃあ、これは自分がやるね!あなたはあれをよろしくね!」と仕事を分け合ったりしながら、友だちや家ぞくと力を合わせて行動しようとしていますか。



役割分担については、多くの児童が「いつもしている」または「ときどきしている」と回答しており、取り組みに対して前向きな姿勢があることがうかがえる。本単元においても、一人一人が自分事としてとらえられるように、畑に区切りをつけたり、お世話の当番を決めたり、チラシを書く分担を決めたりして協働作業を進める。

これまでの活動での子供の様子

○ 単元内での活動の様子

本単元では、学習計画を子供たちに立てさせ、途中で出てきた課題に合わせて、臨機応変に計画を変更したり調整したりしながら思いに沿って活動を進めるようにした。

その1 花壇づくりと種まき

子供たち自身の手によって花壇を作ろうと一から花壇づくりを始めた。しかし、花壇の整地は難しく、なかなか作業が進まなかった。初めは手で雑草を抜いていたが、次第に石や木の枝を使い始め、最終的には多くの子がスコップを使って効率よく作業するようになっていった。

ときには、とても長い根の雑草が土の下から出てきた。しかしそれは花壇の外に生えている木の根であることに気付き、また埋めることができ、6月12日の梅雨の晴れ間の日に種まきができた。

しかし、課題は無くならない「柵どうやって作るんだろう。」「看板も付けたい。」「図工室にあるかな。」「主事さんに聞いてみようか。」このようなつづきをもとに図工の先生と主事さんに協力してもらうことになり、子供たちにとって新たな”つながり”を作りながら活動を続けた。



その2 花壇の看板づくり

花壇の世話をしていくと、様々なトラブルが起こる。

ある日花壇を見に行くと、花壇が掘り起こされておいた。指導者側が学級園の分担を共通理解しなかったため、ある委員会が空いている花壇だと思い、例年通り花壇を耕し直して新たにひまわりの種を蒔いてしまった。

このことを子供たちに伝え、「自分たちの畑であることが見て分からなかったことが原因である。」と考え、図工室から材料をもらい、花壇に看板を立てることに決めた。また、ひまわりについては、「せっかく5、6年生が蒔き直してお世話をしてくれているのだから一緒に育てよう」ということになり、委員会に連絡に行った。問題を乗り越えると、畑への愛着が湧くことを実感した。



その3 学年総会の設定

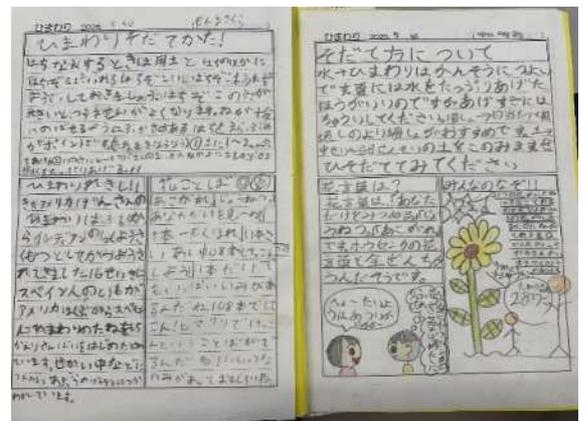
「種を誰に渡すか」という視点での検討がはじまると、いろいろな希望が出てきた。「児童館には自分が渡しに行きたい。」「学年全体でできた種の総数が知りたい。」等、いろいろな希望や疑問を持つようになった。このような経緯から、種を収穫した後に学年総会をもつことにした。

○ 単元内のまとめでの様子

その1 ひまわり図鑑づくり

ひまわりの栽培について必要な情報をタブレットや本で調べること活動を行い、グループでひまわり図鑑を作った。各自がB5版1枚にまとめ合本にしたが図鑑の内容が人とだぶっていて、グループ全体で構成する視点が必要であることに気付いた。

すでに、「記事がたぶらないように書こう」「表紙も分担して書こうね」等、自然に役割分担を意識した発言が出た。



その2 つながりマップづくり

自分の周りにはたくさんの方がいることについて考え整理する過程で、多くの人たちがいろいろな立場で自分をささえてくれることに気付いた。また、自分も無意識に他の人を支えているかもしれないことを意識した。このような気づきを促すために、つながりマップを作った。



(3) 指導観(教師の願いと指導の工夫)

ひまわりを育てて種をプレゼントする活動を子供主体で進めるためには、いろいろな知識が必要になる。そこで、「カリキュラムマネジメント」「表現力の育成」を次のように進めることにした。

カリキュラムマネジメント

ひまわりを栽培するだけでなく、「お世話になった人にあげる」という視点を付け加えて活動に意義をもたせる。

< 1次 ひまわりを育てて準備しよう >

A ひまわり栽培について(経験が少ない植物栽培について学び、活用する。)

- ・理科「種まき～植物を育てよう～」 栽培の基礎知識や種まきの仕方、観察の仕方。
(活動への活用) ひまわりを栽培し観察する。



- ・総合的な学習の時間 ひまわりについての調べ学習を行う。

B まわりの人に目を向ける

- ・社会科「わたしたちのまち」 地域の様子や施設を調べて特徴を知る。
(活動への活用) 自分たちを支えてくれている人について考える。



- ・総合的な学習の時間 お世話になった人について考えよう。
(種をプレゼントする相手を決める。)

C チラシ作り

- ・国語科「ポスターを読もう」 ポスターの見方や効果的な表現。
(活動への活用) チラシづくりに生かす。



- ・総合的な学習の時間 読み手を意識してチラシを書く。

< 2次 たねをプレゼントする >

D E 出店する

- ・理科「たねとり」 種とりの仕方やよい種や悪い種の見分け方。
(算数科 わり算の考え方)
(活動への活用) いくつつ何人に配れるか考える。



- ・学活 3年生学年総会 議長を立てて、渡す相手や分担について話し合う。
(活動への活用) 学年全員で共通理解する。



- ・総合的な学習の時間 出店準備・出店

以上のように、教科と総合的な学習に時間を交互に進めることで経験が少ない子供たちの学習を充実させようと考えた。

段階的な表現力の育成

調べたことをただ写すだけでなく、読み手を意識した表現を身に付けさせたいという願いがあるが、3年生という発達段階では、長い文章を書き上げることは難しさがある。

そこで、以下のようなまとめ方を体験させ、少しずつ読み手を意識した表現に高めていきたいと考えた。

	方法	各自が体験する表現	書く内容
1	メモする	○調べたことをメモする。	・本やインターネットで調べたことを横罫線の用紙にメモする。
2	ひまわり図鑑作り	○調べたことに見出しを付け、見出しに合った記事を書く。	・1人 B5 1枚の用紙にまとめ、それらを本として貼り合わせる。 ・グループで1冊のひまわり図鑑を作る。
3	つながりマップ作り	○グループ内で役割を分担して記事を書く。	・「自分を支えてくれている人」がたくさんいることが分かるよう、グループで内容を分担して記事にする。
4	チラシ作り	○グループで記事を選択し、役割を分担して記事を書く。	・種に付けるチラシに書く記事を吟味し、読み手に思いが伝わるように記事にする。

一人一人の書く文章が短いため、作品が出来上がるための時間は短くて済む。グループで作業することでそれぞれのまとめ方のポイントが捉えられるようにする。

このような段階を経ることで、効果的な記事の選択、紙面の配置などに触れる体験をさせ、次单元や次学年で「ポスター」や「新聞」などの方法を各自が選択できるようになったり、より効果的な表現を模索できたりする足がかりにしたい。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 【自分事として】

役割や分担がはっきりするように取り組む

畑に区切りをつけたり、お世話の当番を決めたりして一人一人が自分事としてとらえられるようにする。また、まとめでは自分が書くことを明確にして人任せにならないようにする。

すべての授業で自分の学びを実感することが重要であると考え、すべての授業の課題提示時に👉マークを提示して各自が学ぶべき事を意識できるようにするとともに、振り返りでも自分について振り返ることができるようにする。



考える力 【めあてをいしき】

学習計画を立てる・臨機応変な学習の進行

第1次初めに、「ひまわりプレゼントプロジェクト」について知らせ、どんな活動をすればよいか考えさせて学習計画を立てる。このようにスタートすることで、学習が子供たちのものになるようにする。また、「畑の土が固いからゆっくりと耕したい」「畑に看板を立てたい」などの課題が出てきたときには、計画にこだわらずに新たな活動を行い、子供たちの興味や意欲に合わせて活動を進める。



訊く・伝える力 【つながる】

「つながり」を意識する

「お世話になった人にひまわりの種をプレゼントしよう」という活動を通して、周りの人の存在に関心を持ち自分が多くの人に支えられていることを知る。また、グループで協働作業することで、友達と

のつながりを大切にできる。さらに、「読み手」を意識したまとめを行うことで、「読み手」とつながる表現を工夫する。

6 単元の指導計画・カリキュラムマネジメント(事前・事後指導の見通し) 本時(10/18時間扱い)

	教科(時数)	学習活動	留意点	評価規準		
	1学期(1次) 学習計画を立てる		チラシを作る			
	1	【課題の設定】 総合的な学習の時間(1) ○学習計画作り	・「ひまわりプレゼントプロジェクト」について知り、学習計画を立てる。	・プロジェクトについて話す。 ・総合的な学習は自分たちで学習計画を立てる教科であると指導する。	・必要な活動を考えて短冊に案を書き、学習計画を立てる。(発言・短冊)  学習に見通しをもち、  学習計画を立てる。	
一次 ひまわりを育てて準備しよう	2	ひまわり栽培 【A】理科 種まき～植物を育てよう～(1+)	・他の植物の種とともに観察し、種まきをする。	・世話の仕方や観察方法などを確認する。	・植物に興味をもち、育て方を調べる方法を知る。(発言・観察ノート) ・種をまき、継続観察することができる。(発言・観察ノート、写真など)	
	3 4 5	【A】 総合的な学習の時間(3) ○ひまわり図鑑作り	(活動) ・各自がひまわりに関する課題を決めて調べる。 (表現) ・調べたことをメモし、グループでひまわり図鑑をつくる。	(活動) ・発達段階として、インターネットだけでは十分に調べることができないため、調べられる本を準備する。 (表現) ・各自がB5版1枚でまとめ、合本にする。	(活動) ・自分なりに課題を決めて調べることができる。(行動観察・ワークシート) (表現) ・自分の調べたことをメモすることができる。(ワークシート) ・自分の調べたことに見出しをつけてまとめることができる。(ひまわり図鑑)	
	6	② まわりの人について知る	【B】 社会科(1) ○わたしたちのまち	(活動) ・自分のまちについて学習したことから、自分の周りについて考える。	(活動) ・たくさんの人と関わっていることや、その人たちに支えられていることに気付くようにする。	(活動) ・多くの人と関わり、支えられ得られていることに気付く。(発言・ワークシート)
	7 8	【B】 総合的な学習の時間(2) ○つながりマップ作り	(表現) ・自分を支えてくれている人達についてまとめる。	(表現) ・自分を支えてくれている日本人達についてポスターにまとめる。	(表現) ・思いをもって周りの人との関りをまとめることができる。(発言・ポスター)  自分を支えている人との関係が考えられる。	
	9	③ チラシ作り	【C】 国語科(1) ポスターを読もう	(活動) ・ポスターを比べて読む。 ・ポスターの例を見て、工夫しているところを話し合う。	(活動) ・作り手の工夫を考える。誰に向けて作られているか、何を、どのように、伝えようとしているのか考える。	(活動) ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(発言・ワークシート)

				・言葉と絵、写真などを、どう組み合わせているか考える。		
	10 11 12	本時  	【C】 総合的な学習の時間（3） ○チラシ作り	（表現） ・伝えたい思いをまとめる。 （表現） ・チラシを作る。	（活動） ・チラシに12で学習した内容が盛り込まれるように指導する。 （表現） ・写真や観察記録などいろいろな学習の足跡が活用できることを指導する。	（活動） ・種を渡す時をイメージし、自分の思いをもてるようにする。 （発言・ワークシート） （表現） ・思いをチラシにまとめることができる。（記事、チラシ）  読み手に伝えたい事を考えることができる。
			2学期（2次） たねとり 振り返り			
二次種をプレゼントする	13 14	出店する 	【D】 理科・算数科（2） ○たねとり ○渡す人を決める	・種を数えて、誰に何個ずつ渡すか決める。	・数え方を指示し、短い時間で数えられるようにする ・相手の人数を確定して計算できるようにする。 ・予備を確保する。	・進んで数える作業に取り組む。 ・渡す相手について自分なりの意見をもって話し合いに参加している。（行動観察・ワークシート）
	15		【E】 学活（1） 学年総会（9/10）	・各クラスの分担や作業手順について確認する。	・各学級から議長や書記、提案者を決めて話し合いをする。	・学年総会に前向きに参加することができたか。（行動観察・振り返り）  学年総会に意見をもって参加できる。
	16	総合的な学習の時間（1） ○出店準備	・分担に従って必要なものを準備する。	・ポスターや封筒の装飾、チラシの封入などの分担を決めておく。 ・作業に必要なものを準備しておく。	・自分に分担された作業に前向きに取り組めたか。（行動観察）	
	17 18	総合的な学習の時間（3） ○出店 ○振り返り	（活動） ・出店する。 （振り返り） ・活動を通して振り返りをする。	（活動） ・店番の割り当て、担当決めを行う。 （振り返り） ・項目に分けてワークシートを作り、振り返りやすくする。	（活動） ・店番の割り当て、担当決めを行う。 （振り返り） ・学習での自分の様子を的確に振り返ることができる。（ワークシート）  種配りに前向きに参加できる。	

7 本時について（11/17時間）

（1）本時の目標

ひまわりの種とともに渡すチラシについて考え、自分が伝えたい内容を意識し、製作や見通しをもつことができる。

本時のキャリアの目標



まわりの人に自分が伝えたいことは何か考える。
チラシを読む人のことを考え、自分が伝えたい内容を選ぼうとする。

(2) 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準(評価方法) キャリア教育の目標に迫るための手だて
導入	<p>1 学習に見通しをもつ。</p> <p>○この台紙を作ってこのくらいの大きさの台紙に作ります。裏にも表にも書きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色がさみしいので、絵を描きたいです。 ・写真を貼りたいです。 <p>○まず、今日はどんな記事を書くかを決めたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 評価規準(評価方法) キャリア教育の目標に迫るための手だて ・チラシのもとになる台紙を見せて、製作のイメージをもたせる。 A4の台紙に、これまでと同じように、各自の記事を貼って仕上げることを知らせる。 台紙と記事の紙を見せる。
<p>チラシにのせる記事を考えよう。</p>		
展開	<p>2 どんな内容の記事を載せるか考える。</p> <p>(1) チラシの効果について考える。</p> <p>○種だけを渡すのではなく、チラシが必要なのはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの育て方が分かる。 ・チラシをつけると、言いたいことが説明でできる。 <p>(2) チラシで伝えたいことを考える。</p> <p>○チラシを渡すことで伝えたいことは何ですか。</p> <p><個人で考える></p> <p>○チラシで伝えたいこととその理由を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの育て方 ・頑張って調べたり育てたりしたこと。 ・看板をつくったこと。 ・「ありがとう。」の気持ち。 <p><学級で考える></p> <p>* 伝えたいことを全体で共有する。</p> <p>がんばった 苦労した ありがとう ひまわりについて</p> <p>(3) グループでチラシに書く記事を決める。</p> <p>○思いを伝えるために記事を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの育て方を説明したい。 理由 育て方を知ってほしい。 ・ひまわりの花言葉を紹介したい 理由 素敵な言葉だから。 ・お世話になった人に手紙を書きたい。 理由 ありがとうを伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトが始まったときに提案されている「チラシ」についても少し考えさせる。 チラシの効果を考えることを通して、もらった人の気持ちを考え、つながろうとする視点をもつことができる。 ・これまでのまとめ方との違いに着目させ、読み手を想定させることで、より効果的な記事の選別ができるようにする。 <p>読み手に喜んでもらおうという思いをもって考えることができる。(発言)【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことは無理に1つに決めない。 ・これまでに子供たちが書いた記事やこれまでの活動をみんなであつめた「アイデア集」にして渡す。 <ひまわりの生育に関わること> 緑 <自分の周りの人に関わること> オレンジ <苦労したこと、活動の記録> 青 ・各グループにホワイトボードを配布し、検討できるようにする。

	○グループで「これは書きたい」と思ったことをまとめて発表してください。	・時間内にはグループの記事は決まり切らないため、次の時間にもう少し話し合いをしてから書き始めることを伝える。
まとめ	4 学習をまとめ、振り返りを行う。 ○今日の勉強は、どんなチラシを作るか考えました。 自分はどんなチラシを作りたいと感じましたか。ワークシートにまとめましょう。	自分なりにチラシをイメージし、伝えたい内容を意識できた。(観察・ワークシート) ・次時の予告をする。 台紙に記事を配置し、どのようなレイアウトをする考えることを伝える。

8 研究協議の視点

ひまわりの種をプレゼントするという活動を設定し、いろいろな教科の学習を組み合わせ活動したことは、「つながり」を感じさせる活動として有効であったか。
表現形式を図鑑づくり・マップ作り・チラシ作りと発展させて取り組んだことは、読み手を意識したまとめの基礎作りとして適切であったか。

ひまわりプロジェクト ()

 めあて

1

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2

.....

.....

.....

.....

.....

.....

 ふりかえり

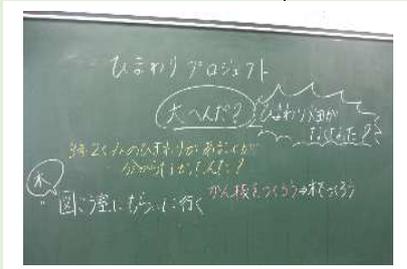
3年2組 みんなであつめた アイディア集

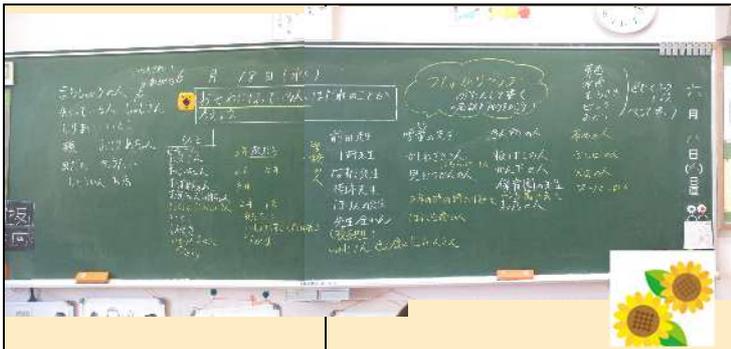
< 図かんづくりで調べたこと >



1	ひまわりのとくちょう
2	ひまわりのれきし
3	ひまわりのそだて方
4	たねまき
5	お世話のし方
6	びょう気や がい虫
7	花について
8	花は どっちをむいてさく？
9	たねはいくつとれるか
10	たねから あぶらがとれる？
11	たねは食べられる？
12	ひまわりのしゅるい
13	世界のひまわりのしゅるい
14	そのほか
15	クイズ
16	おもしろもんだい

3年2組 ひまわりプロジェクトの記ろく

日にち	みんなでしたこと
5月 16日(土)	たねまき 1回目
4月 28日(月) から	ひまわり図かんづくり スタート!
6月 14日(土)	図かん発表
6月 5日(木)	<p style="text-align: center;">トラブル はたけがなくなった <がんばりポイント1> かんばんづくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div> <p style="text-align: center;"><がんばりポイント2> さいばいいいん長 や先生に話した さいばいいいんさんと いっしょにそだてる</p> <p style="text-align: center;">たねまき2 さいスタート</p>
6月 2日(月)	
6月 6日(金) 9日(月) 13日(金) 16日(月) 23日(水) 30日(月)	<p style="text-align: center;">がんばったお世話やかんさつ</p> <p>水やり 草とり 写真 高さ調べ(紙テープ)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
6月 18日(月)	<p style="text-align: center;">つながりマップづくり</p> <p>お世話になった人について考える お世話になった人 や なかま が たくさんいた</p>



6月25日(水)	ポスターのべんきょうをした。
7月2日(水)	チラシ作り スタート！！

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年6月4日5校時

第4学年3組35名

授業者 野崎 麗

< 研究主題 >

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

< 第4学年の目標 > 【キーワード】

-  自分の持ち味を見つける【自分らしさ】
-  もう一步自分ができることを考える【プラス1】
-  自分らしさをかけ合わせてさらに大きな力に！【かけ算】

1 単元名 「共に生きる～できることを力に～」

2 単元の目標

- ・様々な違いがあることや、違いを受け入れることの大切さを理解し、身体（身体障がい）や目（視覚障がい）、耳（聴覚障がい）などに違いのある人々の生活や工夫について調べたことを自分の言葉でまとめる。【知識及び技能】
- ・様々な違いがある人々と共に生きるために、自分たちの生活や身の周りの様子に目を向け、どのような工夫や配慮ができるかを考え、他者の意見や発表から多様な視点や方法を学びながら、自分の考えをもち、話し合いや表現を通して伝え合う。【思考力・判断力・表現力】
- ・様々な違いがある人々との関わりに関心をもち、違いを受け入れることの大切さを理解しながら、自分にできることを考え、よりよい関係づくりに向けて主体的に学び合い、行動しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>人には様々な違いがあることや、違いを受け入れることの大切さについて理解している。</p> <p>身体（身体障がい）や目（視覚障がい）、耳（聴覚障がい）などに違いのある人々の工夫や努力、共に生きるために自分にできることについて、考えたことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>様々な違いがある人々と共に楽しく過ごすために、どんな工夫ができるか考え、表現する。</p> <p>他者の発表から新しい視点や工夫を受け止め、自分の考えを広げたり、学びを整理したりする。</p> <p>自分たちの生活や身の周りの様子に目を向け、様々な違いがある人々と共に生きるためにできることを考える。</p> <p>他者の立場を理解し、自分の考えをもったり、話し合いや表現活動を通して伝えたりしている。</p>	<p>様々な違いがある人々との関わりに関心をもち、すすんで学習に取り組むことができる。</p> <p>自分にできることを考え、すすんで行動しようとしている。</p> <p>様々な違いがある人々との生活やよりよい関係づくりに向けてすすんで学び合い、行動しようとしている。</p>

本単元のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）

様々な違いがある人々と共に生きる社会の在り方を考え、自分と異なる他者の立場や考えに目を向けながら、よりよい人間関係づくりや自分にできることについて考え、他者と協力してよりよい生活や社会をつくっていかうとする協働・共生の態度を育てる。

があった方がいい。誰にでもできないことをする。	自分ができること→助けてあげる ということをやると、みんな幸せ、うれしくなれる。ちがいがあっていい。
ちがいがあっていい。見方を変えると、害虫も益虫になる。	人とはちがう個性があり、助け合う。
いい！みんなちがうこせいじゃないとこれできない、あれができないってなるから。	あっていい。自分ひとりじゃなく、いろんな特技を持った人がいる。
ちがいはあったほうがいい。みんな色々な違いがあるから色々なことが考えられるから。	ちがいがあっていい。助け合える。違う個性があったら、仲良くなれる。
長所と短所が人それぞれちがって、みんな「自」をもっていることだから、いいことだと思う。ちがいがあから、助け合える、協力できる。ちがいがあから、共に生きることができる。	ちがいがなかったら、身長や性別などもすべて同じになってしまう。ちがいがあから、それぞれの個性が顔や言葉に出るから、ちがいがあから方がいい。
ちがいがあからみわけがつく。	ちがいがあからこそ、みんなをすくえる
あからほうがいい。それぞれ個性があから方がみんなその個性を探ることができてさらに仲を深めることができる。	すべて同じだとけんかになってしまうことあるから、ちゃんとちがいがあからほうがいい。嫌いを好きに変えるために、きらい、すき、どっちもあから方がいい。
実は大切なもの。一人の性格だとみんな同じことしかできない。	自分のこせいや、人のこせいを活かせること。いろんな人があからこそ、生きられる。
色々な個性があからから、ちがいも大切。	特技、声、ちがいがあっていい。
ちがいがあからから助け合いができる。ちがいがないと性格がない。	ちがいはあっていいけど、みんなで助け合いをしないと。差別しちゃダメ。
ちがいがあっていい。ちがいがなかったら、できないことがずっとできないままになってしまうから。	大切なもの。ちがいがあからから仲が悪くなる、だめなことあるけど、ちがいがあからから成立する、いいことあるから大切。

目や耳，手足の不自由さがある違いについて，第2時でパラリンピック・デフリンピックの映像を見せた。「自分には目も耳も手足もそろっているのに，パラリンピックやデフリンピックに出ている人たちは，自分よりもすごいことをしている。そのことに気づいて，全部あってもできないことはあるし，人間ってすごいなとあらためて思った。」と，違いについて新たな気付きをもつ児童がいた一方で，「目や耳，手足のちがいがあから人を見たことはあるが，実際はよく分からない」「どのように生活しているのか分からない」「もし一緒にスポーツをしたら，どのようにしたらいいのだろうか」という疑問をもつ児童が多かった。そこで，この単元を通して障がいを違いの一つとして捉え，違いについて知

り、理解し、自分と違う人たちと出会った時、共に生きていくためにどのようにしたらよいかを考えられる児童を育てたい。そして、自分にも同じように長所や短所があり、自分に合った活躍の場を見つけることや自己改善の余地があることなど、自己の生き方について考えを広げられる児童を育成し、これからの人生の中で出会う集団の中で生活をよりよくしていこうとする資質・能力を身に付けさせたい。

(3) 指導観(教師の願いと指導の工夫)

この学習を通して、障がいがあることを違いの一つとして捉え、相手に合わせて工夫をすることで共生できる素地を身に付けさせたい。単元の初めには、自分たちの困り感から学習課題を設定するために、絵本や写真を活用し、年齢・国籍の違いから、段階的に身体や目、耳の違いに目を向けられるようにする。そして、違う視点で調べた相手と交流することを通して、様々な違いのある人々と共に生きるための工夫について考えを広げ、深める。

第二次では、社会の中で様々な違いをもつ人々と共に生きるために自分にできることを考えた経験を生かし、縦割り班という身近な場に目を向け、それぞれの違いに気づき、どんな工夫ができるかを考える。自分の持ち味を發揮しながら、身の周りの様子や生活を見つめ直し、よりよい人間関係づくりや自分にできることに主体的に取り組む中で、他者と協力し、よりよい生活や社会を築こうとする協働・共生の態度を育てていく。

また、障がい者理解を通して、身近な人との違いにも改めて目を向け、自他のよさを認識したり、自分らしさを感じたりできるようにしていく。そのために、自分や身の周りに目を向けられるような発問の工夫をしたり、自分たちにできることを考える機会を意図的に設定したりしていく。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 【自分らしさ】

視点が焦点化された振り返りの意図的な設定

相手との違いを題材にした探究的な課題解決の各学習過程の振り返りで、「自分には何ができそう?」という視점에焦点化して設定する。そのことから、相手との違いを知り、自分にできる工夫を考え、自分だからできることや自分らしさを見つけられるようにする。



考える力 【プラス1】

児童の困り感を中心とした課題設定や学習過程の工夫

第1次初めに、相手との違いから一緒に遊ぶためにできる工夫を考える際に、年齢の違い、国の違い、目や肌、髪の色の違いがある同い年の子どもの写真を提示した後、身体や目、耳が不自由な同い年の子どもの写真を提示する。そのことから児童に困り感をもたせる。第3学年でオリンピックを調べた経験を想起し、パラリンピックやデフリンピックの調べ学習を通して自分ができることを考えていく学習過程の工夫ができるようにしていく。



聴く・伝える力 【かけ算】

縦割り班活動を生かした相手意識

共通体験が少ない児童が自分たちの身の周りに目を向けるために、第2次の初めに「学習したことを生かすために、学校の中で関わりのある学年はどこだろう。」という発問を行う。そこから縦割り班に目を向け、同じグループの2年生について知り、違いについて工夫できるように計画する。また、その話し合いの中の役割を決めていく過程を通して、2年生だけでなく同じグループの友達へも目を向け、皆で取り組むよさを感じられるようにしていく。

6 キャリア教育の目標に迫るための事前・事後指導の見通し（カリキュラムマネジメント）

教科（時数）	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿（評価方法）
特別な教科 道徳（1）	・マップを使って自分らしさを書き出し，互いのマップにそれぞれのよさを加えることを通して，自分らしさを多面的に見つめる。	・第3学年の特別な教科道徳で扱った「リフレーミング」を想起し，本学習につなげることで違いを肯定的に捉えられるようにする。	・自分の個性を大切にすることについて考えを深められたか。（発言・ノート）
【1学期】総合的な学習の時間 （15） 第一次第1時	・違いについて目を向け，他者とのよりよい生活を築くために，相手を知り工夫することの大切さを知る。	・児童が違いについて目を向けやすいように，絵本を活用する。	・人には様々な違いがあることや，違いを受け入れることの大切さについて理解する。（発言・ワークシート）
第二次第12時 本時	・第一次で学習した身体や目，耳の違う人の工夫や自分たちができることを生かし，自分たちの身の周りで自分たちができることについて意見を出し合い，検討する。	・違いがあることを生かして思考できるように声掛けをしていく。 ・同じグループの友達にも目を向けられるようにするために，視点を焦点化する。	・自他の長所や短所に目を向け，自分の身の周りの人たちのちがいについて改めて考え，自分たちにできることを考える。（発言・ワークシート）
第二次 まとめ・表現	・単元を通して学習したことを振り返り，改めて違いについて考える。	・単元初めに書いた違いについての考えと現在の考えを比較し，自己の考えの深まりを感じられるようにする。	・様々な違いがある人々との生活やよりよい関係づくりに向けてすすんで学び合い，行動しようとしている。（発言・ワークシート）
けやき班活動 （年4回）	・違いについての学習から，自分の持ち味を活かしたり，同じ班の児童の好きなことや苦手なことなどを知ったうえで遊びを考えたりして，よりその児童に合った遊びや関わり方を考える。	・「2年生」とひとくくりにするのではなく，人それぞれの違いがあることに目を向けさせる。相手にとって最適な工夫を考え，過度な配慮にならないように注意させる。	・2年生とより仲良く楽しく過ごす方法を考え，実践する。 ・振り返りで，活動でよかったところ，それぞれの児童の様子などをよく観察させ，考えさせる。
【2学期】総合的な学習の時間 （25）	・1学期に学習した身体や目，耳の違う人の工夫や自分ができることを想起し，パラリンピアンの講和や視覚不自由体験，デフパペットシアター体験などから障がい者理解を深める。	・どの体験でも必ず学習の振り返りの視点に，「自分ができる工夫」を入れ，共生社会を作る資質能力を育てられるようにする。	・主体的に違いについて考え，不自由さやできることを肯定的に捉えることができる。（発言・ワークシート）

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験から出た課題を追究し，自分たちでできることを考え，まとめ・表現をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちには何ができるかという問いから，1学期よりも段階が上がっていることに気付かせ，自分たちでできることを主体的に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習から課題を追究し，まとめ・表現をすることができる。（発言・スライド・ワークシート）
--	---	--	--

7 単元の指導計画

時	目標 キャリア教育の視点	学習活動	評価規準（評価方法） キャリア教育の視点
1  課題の設定	一人ひとりの違いに目を向け，相手を知ること で仲良く過ごす工夫が できることを知る。 人それぞれ同じところ， 違うところがあることに 気づき，自分の長所や短 所を認知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・違いとはなにか想起する。 ・『ワラビーのレストラン クワガドエ』を読んで，一人ひとりの違いについて考える。 ・学習の終末に「ちがいがあって，」に続く言葉を考え，記入する。 	【知 - 】人には様々な違いがあることや，違いを受け入れることの大切さについて理解することができたか。（発言・ワークシート） 自他の特徴の違いを捉え，自分らしさや違いがあるよさを感じる。
2  課題の設定	様々な違いがある相手と 共に楽しく過ごすために， どんな工夫ができるか考 え，身体や目，耳が不自由 な人と楽しく過ごす工夫 についての困り感から学 習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手との違いから一緒に遊ぶためにできる工夫を考える。年齢の違い，国の違い，目や肌，髪の色の違いがある同い年の子どもの写真から違いや工夫を考えた後，身体や目，耳が不自由な同い年の子どもの写真から違いや工夫を考える。 ・パラリンピックやデフリンピックを知り，映像を見て自分が，【身体(手足)の違い】【目の違い】【耳の違い】の中から何を調べたいか選ぶ。 	【学 - 】様々な違いがある人々との関わりに関心を持ち，すすんで学習に取り組むことができたか。（発言・観察） 【思 - 】様々な違いがある人々と共に楽しく過ごすために，どんな工夫ができるか考え，表現することができたか。（発言・ワークシート）
3 ～ 7  情報の収集	自分が調べたい視点を 一つ選び，視点に沿って 調べ学習を行い，まとめ る。	<ul style="list-style-type: none"> ・【身体(手足)】【目】【耳】の違いから調べたいものを1つ選ぶ。 ・パラリンピックやデフリンピックから，競技や規則，工夫を調べ，スライドにまとめていく。 	【知 - 】自分が調べたい視点に沿って調べ学習を行い，まとめることができたか。（スライド）
8 9 整理・ 分析	他の視点を調べた相手に 発表するために，発表 内容を考え，スライドに 発表資料をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して伝えられるよう，発表資料の文章量に注意し，写真やイラストなどを活用しながらまとめていく。 	【知 - 】身体や目，耳などに違いのある人々の工夫や努力，共に生きるために自分にできることについて，考えたことを自分の言葉でまとめることができたか。（スライド）
10  まと	発表を通して，他の視 点の工夫などを知り，学 習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体や目，耳の違いやできる工夫について，視点別にグループを作り，発表を行う。 	【思 - 】他者の発表から新しい視点や工夫を受け止め，自分の考えを広

め・表現		・違いについて学習のまとめを行う。	げたり，学びを整理したりすることができたか。 (ワークシート)
1 1 課題の設定	第一次で学習した身体や目，耳の違う人の工夫や自分たちができることを生かし，縦割り班で関わる第2学年の違いを知るために質問を考える。	・学習をふまえ，自分たちの身の周りから関わる機会が多い2年生との関係をよりよくしていく意欲をもつ。 ・同じ縦割り班グループの第2学年の違いを知るために，質問を考える。	【主 - 】様々な違いがある人々との生活やよりよい関係づくりに向けてすすんで学び合い，行動しようとしている。(発言・ワークシート)
1 2 (本時) 情報収集	自分たちの身の周りにある違いに対して，共に生きていくために自分たちができることについて話し合うことができる。 第2学年の長所や短所を踏まえて遊びや工夫，グループでの役割について話し合いをし，自分らしさを実感する。	・「違いがあっても工夫をすれば楽しめる」という学習経験から，学校の中で関わりの多い学年(第2学年)について考えていくことを確認する。 ・縦割り班の同じグループの第2学年の違いを踏まえ，遊びや工夫，役割について考え，グループで検討する。 ・グループで出たことを全体で共有する。	【思 - 】自分たちの生活や身の周りの様子に目を向け，様々な違いがある人々と共に生きるためにできることを考え，意見を出し合うことができたか。(観察・ワークシート) 第2学年の長所や短所を踏まえて遊びや工夫，グループでの役割について話し合いをする。
1 3 整理・分析	縦割り班に向け，自分たちが計画した遊びについてルールや場所など，第2学年の違いに合わせて考える。	・前時に検討した，同じグループの2年生の違いから考えた遊びや工夫，役割を想起する。 ・実施するために，ルールや場所についても第2学年の違いを生かして，考える。	【学 - 】自分にできることを考え，すすんで行動しようとしていたか。(観察・資料) 【思 - 】自分たちの生活や身の周りの様子に目を向け，違いを踏まえて共に生きるためにできることを考え，意見を出し合うことができたか。(観察・ワークシート)
1 4 まとめ・表現	縦割り班の第2学年と自分たちが計画した遊びを実施し，工夫が適していたかを考える。	・第2学年に向け，計画したことを実施してみる。 ・第2学年の反応から自分たちの発表を振り返る。	【思 - 】自分たちが学習したことやよりよい集団生活に向け自分たちができていることについて，発表することができたか。
1 5 まとめ・表現	単元を通して学習したことを振り返り，改めて違いについて考える。 単元初めに書いた違いについての考えと現在の考えを比較し，自己の考えの深まりを感じる。	・第2学年の反応や自分たちの準備過程について振り返り，成果と課題を見つける。 ・単元初めに書いた違いについての考えと現在の考えを比較し，自己の考えの深まりを感じる。	【主 - 】様々な違いがある人々との生活やよりよい関係づくりに向けてすすんで学び合い，行動しようとしている。(発言・ワークシート)

8 本時について(12/15時間)

(1) 本時の目標

自分たちの身の周りにある違いに対して、共に生きていくために自分たちができることについて話し合うことができる。

本時のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）🔥

第2学年の長所や短所を踏まえて遊びや工夫，グループでの役割について話し合いをし，自分らしさを実感する。

(2) 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準（評価方法） キャリア教育の目標に迫るための手だて
導入	1 これまでの学習内容について想起し，見通しをもつ。 ○2年生の得意・苦手に合わせて遊びや工夫，役割を自分で考えましたが，グループで合わさると，どんな遊びや工夫，役割になるでしょうか。	第2学年の児童にもそれぞれに長所や短所があり，違いに対する工夫をすることで皆で一緒に楽しめることを想起する。
	🔥 2年生のちがいに合わせて，自分だからこそできることを考えよう。	
展開	2 縦割り班の同じグループの第2学年の違いを踏まえ，遊びや工夫について考える。（縦割り班グループの5～6人） ○2年生の違いを生かして，どんな遊びや工夫ができそうでしょうか。 ・2年生に走ることが苦手な人がいるから，得意な人にハンデをつけて競争したい。その時○○さんは，説明が上手だから，説明をやってもらう。 ・2年生にボールを捕ることが苦手な人がいるからよけるだけで楽しめる転がしドッジボールをしたい。その時○○さんは，大きな声を出せるから整列役をやってもらう。 3 縦割り班の同じグループの第2学年の違いを踏まえ，役割について考える。 ○自分で考えた役割をけやき班のグループで出し合い，班でどんな役割で行うか考えてみましょう。 ・○○さんは，大きな声を出せるから整列役をやってもらう。 ・○○さんは，説明だけじゃなくお手本を見せるのも上手だから，お手本役がいいんじゃない。 4 グループで出たことを全体で共有する。 ○他の班はどのような遊びや工夫，役割決めをしたのでしょうか。 ・走ることが得意で隠れることが苦手な人が多いので，隠れ鬼にしました。工夫は隠れることが苦手で走って逃げられるからです。役割は，さんは説明が上手なので，説明役になりました。	・自分の考えをもって話し合いに参加できるように，事前に個人で考える時間を設け，それを基に伝えていくとよいことを声掛けする。 ・違いを生かした遊びや工夫についての話し合いが充実するように，細かいルールや場所を次時に決めることを伝える。 「苦手だから行わない」のような考えではなく，「苦手だから工夫をして楽しむ」という学習を生かした考えができるよう机間指導を行う。 ・話し合いが円滑に進んでいないグループには教師が意見を整理し，共通の思いを示していく。 ・役割の例をいくつか明記しておくことで，「誰が担当するか」という視点で話し合いを進められるようにする。 個人で考えた役割の発表から始めることで，じゃんけんなどで決めるのではなく必然的に自ら自分たちのグループ内の違いにも目を向け，その人らしさを踏まえた上で検討できるようにする。 ・話し合いが捗っていないグループには，話し合いの途中でも，他のグループのヒントになりそうな話し合いをしているグループの意見を共有する。 ・2年生の違いから発表できるようにすることで，様々な違いがあることに気付けるようにする。 ・他の班の考えから，違いの生かし方がよいところを見つけられるように，発問を行う。
まとめ	5 学習をまとめ，振り返りを行い，自分らしさを実感する。 ○2年生の違いに合わせて，自分だからこ	本時の課題に戻り，振り返りの視点を「自分の役割」と「決まった理由」に絞ることで無意識にも自分でもっていたものや他の人から

第5学年 特別活動 学習指導案

令和7年6月25日(水)5校時

第5学年2組32名

授業者 渡邊 藍香

<研究主題>

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

<第5学年の目標>

-  自分を見つめよう
-  見通しをもって活動しよう
-  おたがいの考えを聴き合おう

1 議題 「オリジナルキャラクターを作ろう」

(学級活動(1)Aア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

提案理由

5年2組をもっと楽しくて明るいクラスにしたいから、オリジナルキャラクターを作って盛り上げたい。

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級は、男女共に学習や行事にも意欲的で前向きに頑張ろうとする児童が多い。一部、特別な支援や個別指導を必要とする児童に対して、優しく声を掛けたり、時には本人ができるところまで見守ったり、友達に対してうまく対応できる児童が多い。

【授業中の実態】

授業での発言は、高学年ではあるが多くの児童が挙手をし、積極的に答えようという意欲を感じる。一方で、自分の考えに自信がなかったり、どのように表現すればよいか分からなかったりする場面では、発言に消極的になる児童が少なくない。そのため今までの学習の中では「自信をもってできた。(分かった)」「自信はないけどできた。(分かった)」「思いつかない(分からない)からヒントがほしい。」などの3択、もしくは「途中まではできた。(分かった)」を入れた4択程度で挙手をさせ、自分の意見や考えをもち、表現するという意識付けをしてきた。加えて、なかなか自分の考えがもてない場面や、考えに自信がない場面では、周囲の友達と話し合う時間を設けている。それにより、友達の意見をヒントに新たな考えをもったり、自己の考えを広げたりして、発言できるようにしてきている。少しずつではあるが、自信がなくて挙手できなかった児童が自信をもって挙手しようという意識がもててきている。

【学級活動の実態】

学級活動においてはイベント係やお笑い係など、タブレットを使って定期的に活動を報告し、自分たちが実行したいと決めたことをすすんで活動できる児童がいる。特別活動(1)としては、前学年において学級会自体の経験はあるが、話の聴き方に未だ課題がある。話を聴いているつもりだが、話し手が伝えたい内容を理解し、自分の中に落とし込むことまでには至っていない。

文部科学省(2010)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について2」では、組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な能力として、社会人基礎力が求められていると述べられている。社会人基礎力の分類である「チームで働く力」の要素の中には、傾聴力や発信力、柔軟性等が今後求め

られていくと述べられている。これは、今回のキャリア教育の基礎的汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」と関連したものであると考えられる。本研究では、児童のキャリア発達の段階を踏まえ、自分の役割を果たしながら、合意形成を図ることをねらいとしている。活動を通して、相手の意見を丁寧に聴く傾聴力や自分の意見を分かりやすく伝える発信力、意見の違いや立場の違いを理解する力である柔軟性等を身に付けさせたい。加えて、お互いの意見を尊重しながら合意形成を図るという学級会の大切さに気づき、みんなで話し合って実践するよさを実感できるようにしたい。

(2) 議題選定の理由

議題 BOX には、学級のみんで楽しいことをしたいという議題が多く入れられた。今回の議題は、学級の絆をより深め自分たちらしさのあるオリジナルキャラクターを作り、今後の学校行事や活動の中で、様々な場面で使うことによって、学級が一つにまとまってほしいという児童の思いから選定された。計画委員会が最初に懸念していた点は、話し合いで決まったオリジナルキャラクターを、今後どのように活用するのかということであった。キャラクターを作るだけでなく、何のためにオリジナルキャラクターを作るのかを学級会で話し合い、全員が共通認識をした後、どのようなキャラクターにしていくのか考えられるようにしたい。

本時の学級会では、予め募集したキャラクター案を基に話し合うが、キャラクターを決めるというよりも、アイデアを組み合わせたり、新しい考えを生み出したりしながら、「みんなでキャラクターを作り上げる」という意識をもって進めていきたい。また、クラスのキャラクターとしては一つだが、せっかく考えた一つ一つのキャラクターがなくなってしまうのは悲しい。という計画委員の考えで、すべてのキャラクターをイラスト掲示板に掲示し、アイデアを考案してくれた児童の思いを大切にしながら学級会を進めていきたい。

3 評価基準

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の評価基準(第5学年及び第6学年)

(文部科学省国立教育施策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料より)

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

本活動のキャリアの目標(集団の中で自己の役割を果たし、他者と協力・協働する)

相手の立場や考えを理解し、自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の学級会における役割を果たし、他者と協力・協働しながら、今後の学校生活を積極的に形成する。

4 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 【自分を見つめよう】

自分と向き合い、自分を見つめるための工夫

話合いの後、自分自身の話合いに対する姿勢について、振り返りを行うことで、自分と向き合い、今後の自身の課題解決につなげていく。振り返りはレーダーチャートを用いることで視覚的にも自己分析をしやすい方法にする。また教師の終末助言シートを活用し、よい発言があった児童を賞賛し、自己有用感を高められるようにしていく。



考える力 【見通しをもって活動しよう】

話合いを計画的に行うことができるようにする工夫

5年生になってからの学級会では、同じ形式で話合い活動を行っていくことで見通しをもって活動できるようにしていく。学級会では事前に役割を明確にし、計画委員会に打ち合わせをさせることで、話合いを円滑に行えるようにしていく。また、参加者は自分の意見を持ち、意見を学級会の中で示すという自分の役割を意識して参加することを指導している。加えて、道徳の学習で集団の中での役割について学ぶことで、学級会でも各自が役割を果たそうとする意識を高め、話合いを充実したものにできるようにする。



聴く・伝える力 【お互いの考えを聞き合おう】

自分の意見を明確にし、話合いに参加するための工夫

自分の意見を持ち、話合いに参加し、発言しやすくするためにワークシートにメモ欄を設ける。意見を言語化することが難しい児童のために選択するキャラクターにナンバーを付けるようにする。国語科「意見が対立したときには」の学習で話合いの仕方について学ぶことで、学級会での話合いをよりよいものにできるようにしていく。少数意見も大切にしていくため、合意形成を図るための6つのモデルを提示する。

5 活動の実際

教科（時数）	児童の活動 キャリア教育の視点	指導上の留意点	目指す児童の姿（評価方法）
特別活動(1) 朝学習	学級会の進め方を知ろう。 (オリエンテーション)	・学級会の具体的な流れを理解できるようにパワーポイントで流れを示す。	・学級会の進め方を知ることができる。 (態度：楽しい学級生活をつくるために、見通しをもって学級会に参加しようとしている。)
特別活動(1) 5/28 中休み (計画委員会)	学級会を計画しよう。 ・今回の議題を選定し、提案理由を検討する。	・役割の仕事が分かるように流れを説明し、学級会へのイメージをもたせる。	・学級会の流れを知り、自分の役割を理解することができる。 (知識技能：学級会の意義や計画委員の役割、計画的な進め方などを理解している。)

<p>特別活動(1) 5/29(1) 🗓️</p>	<p>学級会を実践してみよう。 議題「誕生日をお祝いしよう」 ・学級会を実践し、学級会の流れを理解する。 お互いの意見を聴き合い、自分の意見をもつことの大切さを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成する際のヒントとして意見のまとめ方のコツを提示する。 ・議題と提案理由を全員が理解しているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会の流れを知り、自分の意見をもつ大切さを理解している。 <p>(議題について自分の考えをもち、話し合いの方法を身に付けている。)</p> <p>(・意見の比べ方やまとめ方を理解している。)</p>
<p>特別活動(1) 6/2 中休み ? (計画委員会)</p>	<p>学級会を計画しよう。 ・前回の話し合いを振り返り、議題、めあてを決める。 ・決まっていることを担任と確認。 ・「話し合うこと」を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学級会を振り返りながら、話し合いのめあてを考えるよう促す。 ・議題によってやることを確認し、集会を行う場所やその準備の時間などを担任と確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会における計画委員会の役割を理解することができる。 <p>(知識技能：みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。)</p>
<p>道徳(1)</p>	<p>「みんな、おかしいよ！」 相手と理解し合うために大切なことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解の困難さ、難しさ乗り越えるためには、どのようなことが大切なのかを捉えられるようにする。 ・授業の終末に、学級会においても互いの意見を尊重し、自分の意見が相手に伝わるようにする必要があることを助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を適切に相手に伝え、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする実践意欲を育む。
<p>国語(1)</p>	<p>「意見が対立したときには」 相手に考えや理由をたずねる 自分の考えの理由をたずねる 「理解した」ことを伝える 話に区切りをつけ、次へ進める 「人」と「意見」を区別すること お互いの意見を尊重し合うための具体的な方法があることを知り、すすんで実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を想定し、時と場合に応じた言葉のやり取りを知る。 ・自分の意見が否定されても、自分自身が否定されているわけではないことを、立場を変えて考えることで理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いにの意見を聞き合い、受け止め、話を前に進めていくことができる。
<p>道徳(1)</p>	<p>「健太の役割」 集団の中で自分の役割を果たすために大切なことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活において、大きな役割だけでなく、小さな役割があることを捉える。 ・授業の終末に、学級会における役割に考える場面を設定する。特に、司会等ではない児童にはどのような役割があるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえ役割が小さなものであっても、自分の役割を果たそうとする気持ちを育む。

<p>特別活動(1) 6/6(1) 🗓️</p>	<p>学級会を実践しよう。 議題「オリジナルキャラクターを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級会を実践し、自分の役割を理解する。 お互いの意見を聴き合い、自分の意見をもつことの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成する際のヒントとして意見のまとめ方のコツを提示する。 教師の終末助言シートを活用して、児童の発言や話合いの価値付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や考えを理解し、自分の意見に理由をつけて伝えることができる。 <p>(思考・判断・表現：解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図っている。)</p> <p>(態度：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、自己の役割を果たして意欲的に学級会に参加しようとしている。)</p>
<p>特別活動(1) 6/ 中休み ? (計画委員会)</p>	<p>学級会を計画しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の話合いを振り返り、議題、めあてを決める。 決まっていることを担任と確認。 「話し合うこと」を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの学級会を振り返りながら、話合いのめあてを考えるよう促す。 議題によってやることを確認し、学級会を行う上での懸念点や話合いの時間などを担任と確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会における計画委員会の役割を理解し、合意形成に向けた話合いの進め方を計画することができる。 <p>(知識・技能：学級会の意義や計画委員の役割、計画的な進め方などを理解し、話合いの方法を身に付けている。)</p>
<p>特別活動(1) 6/25(1) 🗓️ 本時</p>	<p>学級会を実践しよう。 議題「オリジナルキャラクターを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級会を実践し、自分の役割を理解する。 相手の立場や考えを理解し、自分の意見に理由をつけて伝え、協力・協働して合意形成を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成する際のヒントとして意見のまとめ方のコツを提示する。 出た意見をナンバリングして、自分の意見をもてるように声を掛ける。 教師の終末助言シートを活用して、児童の発言や話合いの価値付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や考えを理解し、自分の意見に理由をつけて伝え、協力・協働して合意形成を図ることができる。 <p>(思考・判断・表現：解決方法について、理由などを比べ合いながら、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。)</p> <p>(態度：自己の考えを生かし、見通しをもったり振り返ったりしながら意欲的に学級会に参加しようとしている。)</p>
<p>事後</p>	<p>学級会で作ったオリジナルキャラクターを使おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級会で決まったことを学校生活で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級便りに載せたいキャラクターの説明内容を確認する。 合意形成したことについて、進んで実践できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会で決まったことを、学校生活の中で活用しようとしている。 <p>(思考・判断・表現：合意形成したことについて、協力し合って実践している。)</p> <p>(態度：合意形成したことについて、見通しをもったり振り返ったりしながら自己の考えを生かし、役割を果たして取り組もうとしている。)</p>

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分の学級会における役割を果たし、他者と合意形成を図りながら、学級のオリジナルキャラクターを作り上げることができる。

本時のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）👉

自分の学級会における役割を果たし、他者と協力・協働しながら、今後の学校生活を積極的に形成する。

月 日 () 年 組 ノート記録 () グループ

議題							
提案理由							
めあて							
決まっていること							
計画委員会	司会	司会	黒板	黒板	ノート	(ノート)	提案者

話し合いの計画

話し合いの順序	時間	気をつけること
1. はじめの言葉	1 ~ 8 まで	
2. 司会グループの紹介	() 分	
3. 議題の確認		
4. 提案理由の説明		
5. 話し合いのめあて		
6. 決まっていること		
7. 先生の話		
8. 話し合い		
話し合うこと	話し合うこと	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; width: 180px; height: 80px;"></div>	() 分	
	まとめる	
	() 分	
話し合うこと	話し合うこと	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; width: 180px; height: 80px;"></div>	() 分	
	まとめる	
	() 分	
9. 話し合いのまとめ	9 ~ 14 まで	
	() 分	
10. 決まったことの確かめ		
11. よかったことの発表		
12. 先生の話		
13. おわりの言葉		
14. ふりかえりノート記入		

(2) 教師の指導計画

<p>話合いの順序 (学習活動)</p>	<p>・指導上の留意点 評価規準(評価方法) キャリア教育の目標に迫るための手だて</p>
<p>1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話合いのめあての確認 6 決まっていることの確認 7 先生の話</p>	<p>・提案者の思いや願いを学級全体で共有させ、全員が話すべき議題であることを確認する。 ・めあてに沿った話合いができるように助言する。</p> <p>話合いのめあて</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>・決まっていること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・作られたキャラクターは学級便りに載せ、お家の人にも見てもらえるようにする。また、学級目標やクラスに掲示すること。 ・キャラクターを一つ作ること。 ・考案された全てのキャラクターはイラスト掲示板に掲示されること。 ・人が不快に感じるデザインや名前は採用しないこと。 ・基本的に笑顔のものがよいが、違う顔も候補とすること。 ・名前は考案者ではなく、全員でイラストを見て決めること。 </div>
<p>8 話合い 話し合うこと 「どのようにキャラクターを決めるか。」 9 話合いのまとめ 話し合うこと 「クラスに合ったキャラクターとはどのようなものか。」 9 話合いのまとめ</p>	<p>・児童が自分たちの力で解決できるように見守る。 ・司会が進行に困ったときや、話合いの方向性がずれたとき、自治的活動の範囲を超えそうな場合には、児童の合意形成を方向づけないように留意しながら助言する。 ・発表者が偏らないようにできるだけ多くの児童が発表できるように助言する。 ・必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。</p> <p>振り返りシートのメモ欄を活用し、自己の意見を可視化できるようにする。</p> <p>評価規準(評価方法)</p> <p>思考・判断・表現：解決方法について、理由などを比べ合いながら、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (振り返りシートへの記述)</p> <p>態度：自己の考えを生かし、見通しをもったり振り返ったりしながら意欲的に学級会に参加しようとしている。(観察)</p> <p>合意形成する際のヒントとして意見のまとめ方のコツを提示する。</p>

名前()

日付	月 日()
議題	『 』
めあて	
メモ	【自分の意見・理由】意見が変わったら赤でかこう。

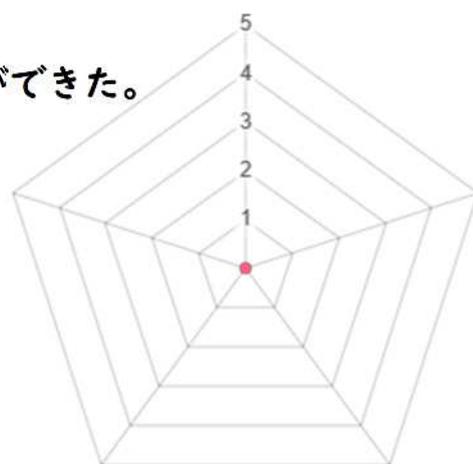
自分の意見をもつことができた。

自分の意見と比べながら、友達の意見を聴くことができた。

自分の意見を発表することができた。

自分の役割を意識することができた。

友達の意見のよいところを見つけることができた。



ふりかえり(自分や友達のよかったところ、次の話し合いで生かせること)

7 研究協議の視点

- ・話合いの中で、児童がお互いの意見を受け止めた上で、自分の根拠を述べる姿が見られたか。
- ・振り返りシートの項目(メモ欄、レーダーチャート、よいところを見つける振り返り)が自己の役割を果たすための工夫として有効だったか。

参考資料 学級会ノート、終末助言シート、合意形成テーマ例「まとめ方のこつ」、国語、道徳の教科書

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年9月17日5校時

第6学年3組31名

授業者 井村 勇斗

< 研究主題 >

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

< 第6学年の目標 > 【キーワード】

-  得意なことを大切に苦手なことにもチャレンジしよう 【一步踏み出そう】
-  見通しをもって先のことを考えよう 【自分から動こう】
-  それぞれのよさを発揮して成しとげよう 【チームで】

1 単元名 「共生社会を目指して～知的障害って?～」

2 単元の目標

- ・知的障害者の生活や思い、自分たちの生活との関わりを知り、共生社会の実現を目指すために、相手の立場に立って考え、行動することの大切さを理解している。【知識及び技能】
- ・共生社会の実現を目指すうえで必要な事柄をふまえ、知的障害者の立場に立ってどのような工夫や配慮ができるかを考え、交流会を計画し実践している。【思考力・判断力・表現力】
- ・共生社会の実現を目指して、知的障害者の思いに気付き、自分たちにできることを主体的に考えて交流しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共生社会について理解している。 知的障害者の生活や自分たちの生活との関わりについて知り、知的障害者の思いに気付くことができる。 共生社会を目指すために、相手の立場に立って考え、行動することの大切さを理解している。	知的障害者の立場に立ってどのような工夫や配慮ができるかを考え、交流会を計画している。 知的障害者の立場に立ってどのような工夫や配慮ができるかを考え、交流会を実践している。	知的障害者の生活や思い、自分たちの生活との関わりについて知ろうとしている。 交流会に向けて、知的障害者の立場に立ってどのような工夫や配慮ができるかを主体的に話し合おうとしている。 知的障害者の思いを考えながら、交流しようとしている。

本単元のキャリアの目標 (**集団の中で自己を生かせるように**)

障害のあるなしに関わらず、誰もが同じ社会を生きる人間として、互いを理解し、助け合い、支え合って生きていこうとする。

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領第5章総合的な学習の時間第2の3の(5)に示された3つの課題のうち「横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）」に当たる。練馬区は、誰もがその人らしさを尊重し合える共生社会の実現を目指し、地域と協働した活動を推進している。本校から徒歩10分の距離に位置する「かたくり福祉作業所」は、障害のある方が自立した日常生活や社会生活が送れるよう、必要な支援を行い、福祉の向上を目指している施設の一つである。地域にある福祉施設を活用することで、共生社会の実現に向けた課題を自分ごととして捉えることができるのではないかと考え、本単元を設定した。

施設の利用者や職員の方との交流を通じて、障害のあるなしに関わらず、誰もが同じ社会を生きる人間として、互いを理解し、助け合い、支え合って生きていくための基盤づくりとしたい。

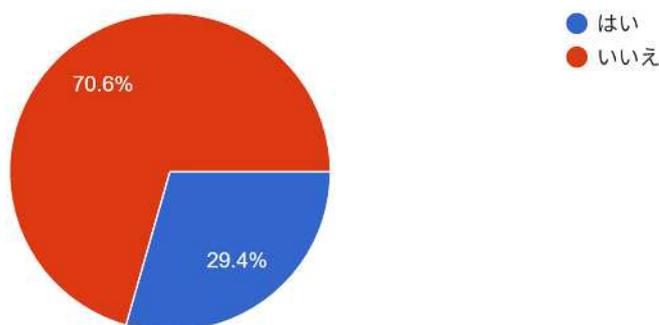
(2) 児童観

本単元に関するアンケートの結果は、以下の通りであった。

「1、『障害者』という言葉聞いて、思い浮かべることは何ですか。」という質問に対して、「かわいそう。」「助けや支援が必要な人。」という一方的な解釈が見られた。実際に障害のある人と接した経験がない場合、社会が作り上げたイメージや、「障害」という言葉が与える偏見がそのような解釈を無意識に生んでしまっているのではないかと感じた。「2、知っている『障害』の種類には、どのような種類がありますか。」という質問に対しては、視覚、聴覚、肢体不自由などの身体障害が圧倒的に多く、知的障害と答える児童は数人にとどまった。地域の施設活用を通して、知的障害者の存在を知ったり、障害にもいろいろな種類があることを知ったりすることも、共生社会の実現の一歩としたい。

3、障害のある人が困っているときに手助けをしたことはありますか。

85件の回答

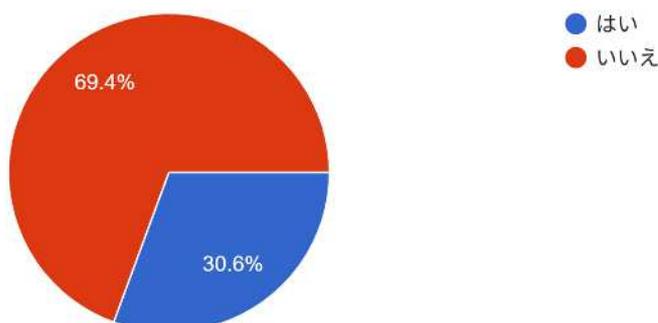


「はい」と回答した児童に対し、「どんな方にどのような手助けをしましたか。」と質問したところ、「目の不自由な方に道案内をした。」「視覚障害の方に、点字ブロックまで案内した。」など、視覚障害者への手助けが多かった。これは、白杖を付いているなど一目で障害の有無が分かることや、手助けの

方法を知得しやすいことも影響しているのではないかと考えた。一方、「いいえ」と回答した児童に対し、「どうしてですか。」と質問したところ、「見かけても、何をすればいいか分からなかったから。」「助けたことで、おせっかいになったり邪魔になったりするかもしれないから。」など、障害者への理解不足や、手助けしたいが一步踏み出す勇気がないという思いを感じ取ることができた。

4、「共生社会」という考え方を知っていますか。

85件の回答



この質問に対し、「はい」と回答した児童は3割にとどまった。「共生社会」は国や行政機関が積極的に推進している課題ではあるが、子供たちが見聞きする機会や、自身の日常生活の中で共生社会の具体的な「姿」を実感する機会の少なさが原因ではないかと考えた。

以上の結果から、本単元を通して地域の施設を生かしながら知的障害者との関わりをもち、障害者は健常者が一方的に助けたり支えたりする存在ではないことの理解へとつなげていきたい。また、「共生社会」への正しい理解に加え、知的障害者との交流会を経て「共生社会のあるべき姿」を実感の伴った理解へと深化させていきたい。

【資料】

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。（文部科学省）

共生社会の実現に向けた取組として、「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するためには、日常生活や社会生活における障害者の生活を制限し、社会への参加を制約している社会的障壁を取り除くことが重要である。」（内閣府）

（3）指導観（教師の願いと指導の工夫）

単元を通して、児童一人一人が「福祉や障害」を身近なこととして捉え、共生社会を実現するために自分にできることは何かを問いながら課題解決学習を進めていく。総合的な学習の時間で「福祉や障害」について学ぶ主な目的は、大きく3つある。1つ目は、「共生社会への理解」である。障害のある人が自分たちと共に社会で生活していることを理解し、支え合いながら共に生きることの意義を

考える。2つ目は、「課題解決能力の育成」である。疑似体験や調査活動を通して、障害のある人が生活する上で直面する課題を見付け、その解決策を考え、実行する能力を養う。3つ目は、「思いやりの心と実践意欲」である。障害のある人の気持ちを理解し、彼らの気持ちに立って考えることで、思いやりの心を育み、自分にできることを実践しようとする意欲を高める。

第1次では、共生社会への理解を深めるために、定義について調べたり、SDGsやバリアフリーなどと関連付けて共生社会の実例を見付けたりする。また、本やインターネットで調べるだけでなく、「かたくり福祉作業所」の職員の方をゲストティーチャーとして招き、共生社会への思いや願いについてお話を伺い、理解を深めていく。

第2次では、課題解決能力の育成のために、「かたくり福祉作業所」へ見学に行き、障害のある人が働く様子や工夫、支援などを観察したり、障害のある人へ事前に調べたことや疑問に思っていることなどを質問したりしながら、共生社会の実現に向けて児童一人一人が課題を見付けられるようにする。単に知識を得るだけでなく、見学を通して障害のある人の生活や工夫を理解し、共生社会を築くための力を養っていききたい。

第3次では、地域に暮らす多様な人々との共生を考え、地域の一員として自分にできることを実践しようとする意欲を育むために、「かたくり福祉作業所」の方との交流会を実践する。ただし、交流活動が形式的になったり、一方的な支援になったりすると、障害者への間違った認識につながる危険性もある。たとえ初めは違和感があっても、障害の有無に関わらず、互いの人格と個性を尊重し合い、認め合えるような関わり方について考えるきっかけとしたい。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



見つける力 【一步踏み出そう】

「できることマップ」の活用

本やインターネットだけでなく、実際に施設を訪れて情報を得たことで、知的障害に対する理解はさらに深まるが、一方で、これまで「できる」と思っていた施設利用者との関わりが現実には難しいことだと感じる経験にもなる。施設職員の方のお話や利用者との交流を経て作成した「できることマップ」を通して課題を整理し、互いに楽しめる交流会の実践につなげていきたい。



考える力 【自分から動こう】

「つながり」を意識した単元計画

地域の施設を活用した学習指導は、子供たちが身近な環境を通して社会とのつながりや学びを深める有効な手段となる。同じ年齢の子供同士の横のつながりだけでなく、異学年との関わりや地域との縦のつながりも大切にしながら、地域の人々が互いに支え合っていることに気付き、障害のある人が生活する上での課題を見付け、自分にできることを考える探求的な学習としたい。



聴く・伝える力 【チームで】

それぞれのよさを発揮できる交流会の実践

交流会に向けて、自分はどのようなことができるか具体的な工夫や配慮を考え、協力して準備を進めていく。障害のある人に対する「かわいそうな存在」や「何かをしてあげる対象」という認識の誤りに気付かせ、互いに助け合う関係性を築くことを促していきたい。そのためにも、「できることマップ」で見つけた自分や友達のよさを発揮するだけでなく、障害のある人たちの「好き」や「得意」も発揮される交流会としたい。

6 キャリア教育の目標に迫るための事前・事後指導の見通し（カリキュラムマネジメント）

教科（時数）	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿（評価方法）
国語科（５） 「私と本」	<ul style="list-style-type: none"> 一つのテーマ（「ユニバーサルデザイン」や「共生社会」など）に沿って、何冊かの本を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の本を関連づけて読んだり、インターネットを通して知ったことと本で知ったことを結び付けたりするなど、複数の情報を関連づける読書を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックトークを通して、「ユニバーサルデザイン」や「共生社会」などのテーマについて理解を深める。（発言・観察・ワークシート）
算数科（１０） 「データの調べ方」	<ul style="list-style-type: none"> 統計的な問題解決の方法を用いて、「共生社会」についての問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「共生社会」の周知度や「障害者差別解消法」の周知度など、「共生社会」に関連した問題を提起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた統計的な問題解決の方法を知る。（発言・観察・ワークシート）
総合的な学習の時間（１０） 本時	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業や見学での学びを整理し、自分たちができることを考える。 個人でワークシートにまとめ、グループ・全体で交流する。 学級の意見を「できることマップ」にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人思考 グループ交流 全体交流を計画的に支援する。 発問で理由や効果を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現のために、知的障害のある人について学んだことをまとめ、自分たちができることを考え、伝え合っている。（発言・観察・ワークシート）
国語科（６） 「みんなで楽しく過ごすために」	<ul style="list-style-type: none"> 「かたくり福祉作業所」の方との交流会で、どんなことをしたらよいか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件に応じた話し合いができているか、視点を明確にする。 考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いを通して、結論に向かわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件に応じて、皆が納得できる結論にたどり着けるような話し合いをしている。（発言・観察・ワークシート）
道徳科（１） 「私には夢がある」	<ul style="list-style-type: none"> 差別のない社会を実現するためには、どんな考えが大切なのかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人種差別や偏見は決して許されるものではないことを理解させる。 差別や偏見に対して、自分はどのような行動を取っているかと、自分を見つめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめのないクラスや差別のない社会を実現するために、自分には何ができるかを考えている。（発言・観察・ワークシート）

7 単元の指導計画

時	目標 キャリア教育の視点	学習活動	教師の支援・指導	評価規準（評価方法） キャリア教育の視点
1 	学習計画を立て、共生社会についての問いをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 単元のテーマを知り、「共生社会ってなんだろう？」と問いを出し、考える。 地域でも知的障害という障害のある人が働く施設があることを知る。 学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「共生」という言葉の意味や例を紹介する。 児童の疑問をまとめ、今後の学習課題に整理する。 	【主 - 】共生社会とはどのようなものなのか疑問をもち、知的障害について自分たちとどのような関わりがあるのか知ろうとしている。（観察・ワークシート）
2  	共生社会の具体的な姿を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の定義を知る。 SDGsやバリアフリーなどと関連付けて調べ、共生社会の実例を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本やICTを用意し、調べたことを共有できるように支援する。 	【知 - 】共生社会の定義を知り、これまでの学習や生活経験、調べ学習をもとに、自分の言葉で表現することができる。（ワークシート・発言）
3  	知的障害の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害についてグループでテーマ（特性、生活、支援）を分担して調べ、まとめて発表する。 知的障害のある人とどのような交流がしたいのか（できるのか）考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が捉えやすい資料や映像を提示する。 誤解や偏見が生じないように補足をする。 	【知 - 】知的障害のある人はどのような特性があるのか、生活の仕方や困っていること、どのような支援を必要としているのかなどを分かりやすくまとめることができる。（観察・ワークシート）
4  	本人や支援者の思いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 「かたくり福祉作業所」の方のお話を聞き、思いや願い、支援の方法などを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーを招き、質問活動を促す。 	【知 - 】知的障害のある人の思いや生活など聞いたことを丁寧にメモに残している。（ワークシート） 【主 - 】知的障害の人から直接お話を聞いて、興味や疑問をもち、積極的に質問している。（観察）
5  	知的障害の人たちの働く姿や工夫を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 「かたくり福祉作業所」を見学し、働く様子や工夫、支援などを観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学の視点（働き方・工夫・支援）を事前に示す。 	【知 - 】知的障害のある人たちの働く様子を見て気付いたことや疑問に思ったことなどをまとめたり、質問したりしている。（観察）
6 	共生社会の実現に向け、自分の行動を具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業や見学での学びを整理し、知的障害のある人と関わるときの工夫をまとめる。 個人でワークシートにまとめ、グループ・全体で交流する。 「できることマップ」にまとめ、交流会で何をするのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 言い換え、見える化、手順化、環境の視点で「できることマップ」を作成させ、交流のイメージを膨らませる。 発問で理由や効果を深める。 	【知 - 】共生社会の実現のために、知的障害のある人について学んだことをまとめ、自分たちができることを考え、伝え合っている。（発言・観察・ワークシート）

7 (本時) 	「かたくり福祉作業所」の方との交流会を開こう。(計画・準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・「できることマップ」をもとに、作業所の人たちとの交流計画を立て、準備をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を尊重しつつ、実現可能性を助言する。 	【思 - 】どのように知的障害のある人たちと交流するとよいか、理由や予想される成果をもとに考えている。(観察・ワークシート)
8  	「かたくり福祉作業所」の方との交流会を開こう。(準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や役割分担を具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を見取り、協力的に進められるよう支援する。 	【主 - 】交流会に向けて、自分はどのようなことができるか具体的な工夫や配慮を考え、協力して準備を進めている。(観察)
9 	「かたくり福祉作業所」の方との交流会を開こう。(交流)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や道具、活動の流れの仕上げを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不足物や改善点を助言する。 	【主 - 】計画をもとに友達と協力して相手の気持ちに寄り添って交流しようとしている。(観察)
10  	学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・交流後に振り返り、共生社会の実現と自分のあり方についてまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の記録を提示し、振り返りを促す。 	【知 - 、 】これまでの学習をもとに知的障害のある人と共生していくために自分がどう在りたいかを考え発表している。(発表・ワークシート)
11	単元を通して学んだことを5年生に伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で共生社会の実現に向けて気付いたことや学んだことを5年生に向けて発表する。 		【知 - 、 】これまでの学習をもとに知的障害のある人と共生していくために自分がどう在りたいかを考え発表している。(発表)

8 本時について（7 / 11 時間）

（1）本時の目標

- ・出前授業や見学で得たことを活かし、知的障害のある人と互いに気持ちよく交流するために自分たちにできることをまとめることができる。
- ・グループや全体で交流し、共生社会を目指して共によりよい交流計画を作り上げようとする。



本時のキャリアの目標（**集団の中で自己を生かせるように**）

- ・知的障害のある人と互いに気持ちよく交流するために、自分たちがどう在るべきかを考えることができる。
- ・本時で提案した工夫は知的障害のある人を支援するためではなく、全ての人のためになっていることに気付くことができる。

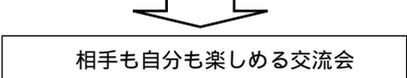
（2）本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準（評価方法） キャリア教育の目標に迫るための手だて
	<p>1 前時で作成した「できることマップ」をもとに知的障害のある人とどのような交流会にできるとよいかを確認する。 テーマ「相手も自分も楽しめる交流会」 「できることマップ」を作って何を分析しましたか？ ・相手と自分の好きと苦手です。 ○どうして相手のことだけでなく、自分も分析したのですか？ ・相手も自分も楽しめる交流会にしたいから。</p> <p>2 課題の明確化 今日は、チームで「できることマップ」をもとに交流会の計画を立てていきます。</p>	<p>・相手ばかりではなく自分に視点を置くことの大切さを想起させ、「共生社会」の意識として、お互いに楽しめる交流会の計画を目指すよう促す。</p>
	<p>「できることマップ」をもとにチームで工夫して交流計画を立てよう。 </p>	
導入 (5分)	<p>3 学習の流れの確認 前時まで確認した「言い換え 手順化 環境 見える化」の工夫を想起させ、本時の学習の流れを確認する。 ○交流の工夫とはどのようなものがありましたか？ ・言い換え、手順化、環境、見える化です。 ○今日は具体的に自分たちがどのような工夫ができるか考えていきましょう。 「学習の流れ」 交流会の目標を立てる。 交流会でやることを決める。 工夫できることを考える。 (工夫 その工夫をする理由 工夫をした効果) 発表(チームから1人) 「やること 工夫 理由 予想される効果」 まとめ・振り返り</p>	<p>・前時で確認した4つの工夫を想起させ、黒板に示しておき、交流計画を立てる際のヒントになるようにしておく。 ・学習の流れを示し、計画づくりの後に交流の工夫のポイントを詳しく発表する準備ができるようにしておく。 ただ工夫することを発表するだけではなく、相手と自分を意識して「なぜその工夫をするのか」「工夫をしたことによってどのような効果が期待できるか」まで発表できるように発表の流れも示しておく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開 (35分)</p>	<p>3 チーム活動 ワークシートに交流する相手の名前を書き、交流会のチーム目標を立てる。 ○このチームでどのような交流会にしたいのが目標を立てましょう。</p> <p>4 チーム活動 個人の「できることマップ」をチームで共有し、交流会の時間配分とやりたいことを決める。(7分) ○初めに、交流会でやりたいことを考えていきます。「交流デザインシート」の一番上の枠に時間、その下にやりたいことを書きましょう。</p> <p>5 チーム活動 (13分) 交流会でやりたいことをもとに、どのような工夫ができるのかを考える。 ○実際にどのような工夫ができるのかを考えていきましょう。4つの工夫以外にも沢山工夫できることを見つけて、楽しい交流を計画していきましょう。</p> <p>6 発表(15分) 交流会でやりたいこと、工夫、その工夫をした理由、工夫によって予想される効果をグループごとに発表する。 ○チームから1人前に出て、交流内容とその工夫、なぜその工夫をしたのか、その工夫をしたことでどんな良いことがあるのか発表しましょう。</p>	<p>「ただ楽しく交流する」で終わってしまわないよう、何を目的に交流するのか、交流会でどのようなものを得たいのか、互いに楽しむ意識をもちどのような交流会にしたいのかを自分たちの言葉で明確にできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できることマップ」を生かして互いの得意・好きや苦手を意識させる。 ・事前に場所は体育館であること、交流時間は30分であることを伝えておき、時間配分やその場所でできることを意識させる。 ・交流会の計画を立てる中で、「かたくり福祉作業所」の方に聞いておきたいこと、疑問に思ったこと等をメモしてよいことを伝え、リサーチをしながらよい計画を作ろうとすることを意識させる。 ・「言い換え」「手順化」「環境」「見える化」の工夫があることを想起させ、児童が交流内容にあった工夫を選び、考えることができるようにする。 工夫を考える中で、相手の個性を意識して理由や期待される効果も一緒に考えることができる。(ワークシート) <p>発表の際に、やりたいことと工夫を話すだけでなく、「その工夫をした理由」「工夫によって期待される効果」等詳細に発表させることで「知的障害があるから」ではなく「この人や自分たちにはこういった個性があるから」といった意識をすることができるよう促す。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>7 まとめ どうして相手も自分も意識して交流計画を立てたのかを確認し、計画を立てる中で相手ばかりにならずに自分も意識できたのかを振り返る。 ○今日はどうして交流会でできる工夫を考えたのでしょうか。 ・相手も自分も楽しめる交流会にするためです。 ○今日の交流計画で、相手の好き・苦手、自分の好き・苦手を意識して考えられた人はマークに色を塗りましょう。</p> <p>8 知的障害のある人と関わっていくには自分たちにどのような意識があることが大切かをまとめる。 ○今回考えた工夫は知的障害のある人たちだけのためにしかなりませんか？ ・自分たちのためにもなっています。 ・他の人が見ても分かりやすいです。 ○知的障害のある人と関わるときのポイントは何でしたか？ ・「知的障害だから、ではなく人それぞれ個性があるから」と考えることです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があるから支援をするのではなく、人それぞれに違いがあるから関わる上での工夫を考えることが大切であるということに気付かせる。 自分たちが考えた交流会の工夫は、知的障害のある人を支援する場合のみ生かさせるものなのかを考えさせ、「言い換え」「見える化」「手順化」「環境」の工夫を考えることは自分たちのためにもなっていることに気付かせる。 <p>共生社会の実現に向けて、自分にどのような</p>

<p>○「共生社会」を目指していくために、どのようなことを意識して生活していきたいですか。今の自分の考えを書きましょう。</p>	<p>ことができるのか、共生社会での在り方を自分の言葉で表現することができる。(ワークシート・発言)</p>
--	--

(3) 板書計画

<p>共生社会の実現に向けて～知的障がいて？～</p>	<p>めあて 「できることマップ」をもとに、チームで工夫して交流計画を立てよう。</p>								
<p>「できることマップ」を作って気付いたこと</p>  <p>相手も自分も楽しめる交流会</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="726 488 853 526">①言い換え</td> <td data-bbox="869 488 997 526">②手順化</td> <td data-bbox="1013 488 1141 526">③環境</td> <td data-bbox="1157 488 1284 526">見える化</td> </tr> <tr> <td data-bbox="734 526 845 616">例</td> <td data-bbox="869 526 981 616">例</td> <td data-bbox="1013 526 1125 616">例</td> <td data-bbox="1141 526 1252 616">例</td> </tr> </table>	①言い換え	②手順化	③環境	見える化	例	例	例	例
①言い換え	②手順化	③環境	見える化						
例	例	例	例						
<p><学習の流れ> 交流会の目標を立てる。 交流会でやることを決める。 工夫できることを考える。 (工夫 その工夫をする理由 工夫をした効果) 発表(チームから1人) 「やること 工夫 理由 予想される効果」 まとめ・振り返り</p>	<p>共生社会を実現するために</p>								

9 授業観察の視点

- ・「交流デザインシート」は児童が学習してきた内容をまとめ、知的障害のある方々と交流する内容をまとめるにあたって適切であったか。
- ・本時の学習を通して、児童が支援者の視点から互いに支え合う視点に転換し、交流会の工夫を考える中で共生社会の実現に向けて自分たちの在り方を言語化することができていたか。

第4学年 図画工作科 学習指導案

令和7年10月29日5校時

第4学年2組35名

授業者 田中 悠紀

会場 図工室

< 研究主題 >

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成～キャリア教育を通して～

< 第4学年の目標 > 【キーワード】

人間関係形成・社会形成能力の育成に重点をおく

- 💡 自分の持ち味を見つける【自分らしさ】
- ❓ もう一步自分ができることを考える【プラス1】
- 🔥 自分らしさをかけ合わせてさらに大きな力に！【かけ算】

1 単元名 「音楽会もりあげ隊」

2 単元の目標

- ・紙粘土や身近な材料で「音楽会もりあげ隊」の人形を表すことを通して、形や色などの感じがわかり、表したい人形に合わせて、形や色を工夫して表す。【知識・技能】
- ・導入で見た実物の楽器や画像、動画からイメージを広げ、表したいものを思いつき、どのように表すか考えている。【思考力・判断力・表現力】
- ・人形をつくったり、見せ合ったりして伝え合う学習活動に進んで取り組む。【学びに向かう力】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
紙粘土や身近な材料などで「音楽会もりあげ隊」の人形を表すことを通して、形や色などの感じがわかって いる。 表したい人形に合わせて、形や色を工夫して表している。	導入で見た実物の楽器や画像、動画からイメージを広げ、表したいものを思いつき、どのように表すか考えている。 自分や友達の発想、表し方の工夫や違いに気付き、見方や感じ方を広げている。	人形をつくったり、見せ合ったりして伝え合う学習活動に進んで取り組もうとしている。

本単元のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）💡🔥

- ・造形活動を通して、自分らしさを学級やグループの中でどう生かせるか考えながら表現する。
- ・個々のよさを掛け合わせ、お互いのよさを認め合って、みんなで1つの作品をつくり上げるよさを味わう。

4 単元設定の理由

(1) 題材について

本教材は11月下旬の音楽会に向けて、一人一人の気持ちを盛り上げるような作品づくりがテーマになっており、造形活動を通して思い思いに好きな楽器を演奏する姿を表現できる内容になっている。

音楽科では、音楽会に向けて担当する楽器をオーディションで決め、練習に励んでいる。本教材では、音楽会で使用する楽器に限定せず、また楽器ごとの人数の制約はなく、児童が「自分らしく」音楽会を盛り上げることができるという児童の思いを表現できる教材である。

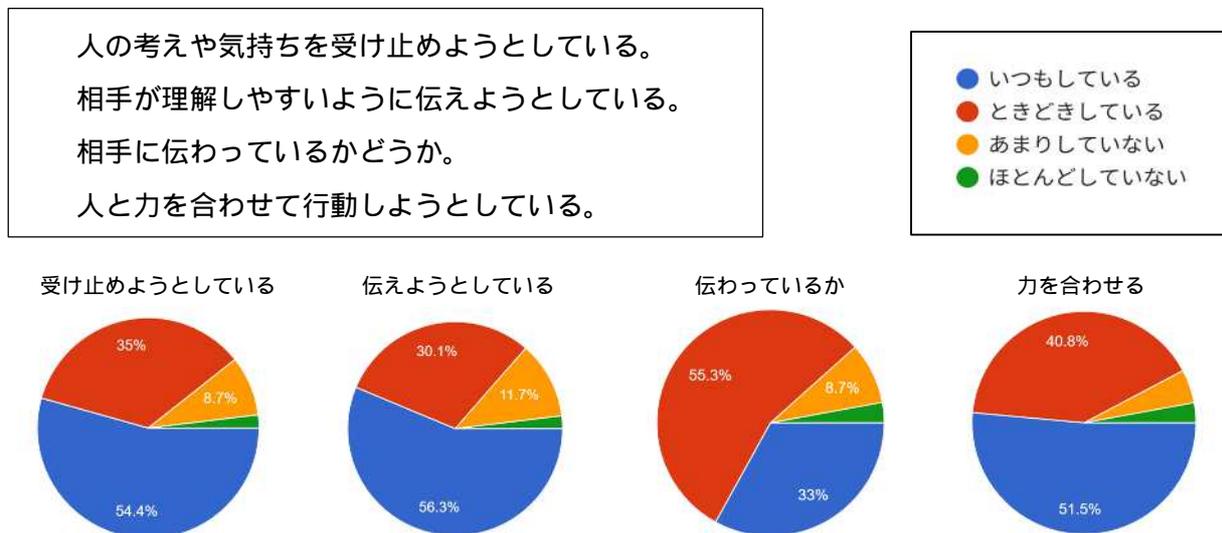
図画工作科は日頃、個人の作品作りが多いが、本単元ではそれぞれが自分らしさを発揮しながら、音楽会を盛り上げる姿を表すことをねらい、クラスのみなどと1つの「音楽会もりあげ隊」という大きな作品をつくり上げる。今回は、児童の「こんな人形を作りたい」「こんな楽器を作りたい」という思いや発想を大切に、さらに友達との話し合いでより良いものを表現することを目指しており、どんな完成形になるか楽しみな教材である。

本時では、図画工作科の授業ならではの、手を動かし作る場面、特に自分で考えたことや、友達と考えたことをいかし工夫しながら作る場面として、服を作るところを本時となるように設定した。

(2) 児童観

昨年度の展覧会での共同作品では「おいおいケーキ」を意欲的に作った。通常の授業でも、個人での制作がメインであるが、意欲的な児童が多い。

以下は6月に実施した今年度の研究テーマにかかわるアンケートの4年生の結果である。

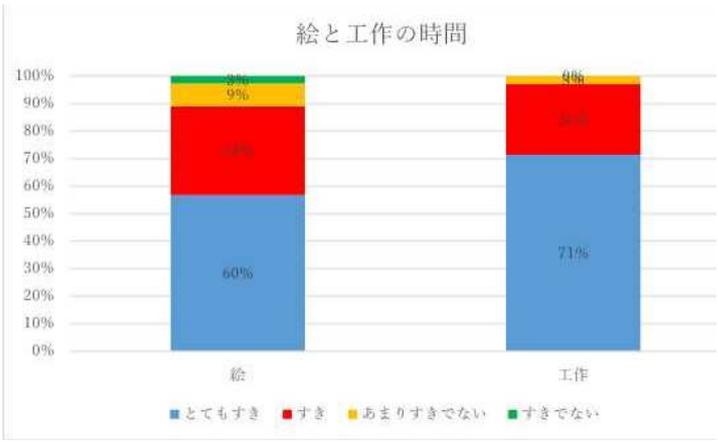
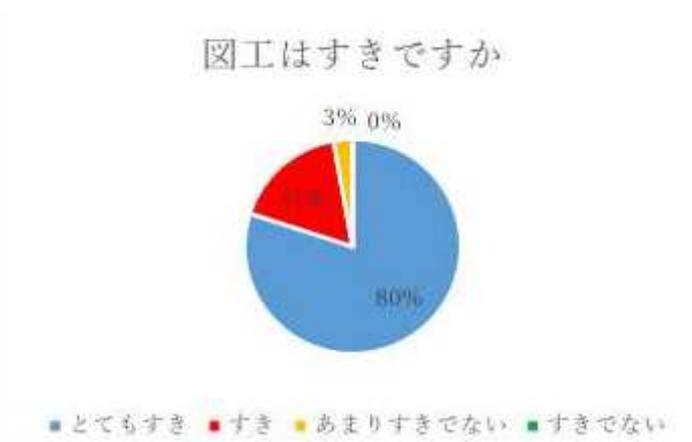


このアンケート結果から、他者意識が高く、人と力を合わせて活動する意欲が高い児童が多いことがわかる。

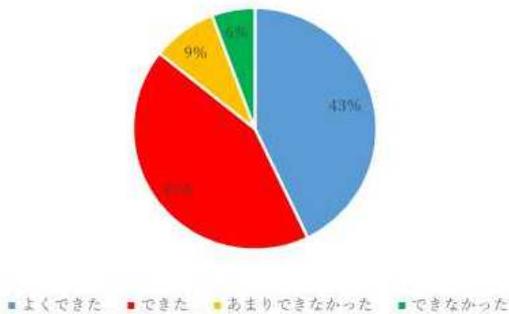
また、どの項目でも肯定的な回答(A+B)が8~9割となっているが、**伝わっているか**については、他の項目に対してAの回答が少なめになっているのがわかる。人とのかかわりの中で、思いを伝えたり受け止めたり、人と協力したりしようとしている一方で、自分の行動に対する自信はやや低いととらえることができる。

また、7月に実施した図工の授業に関わるアンケートについては、以下のような結果となった。(今回の授業に関わる項目のみ抜粋)

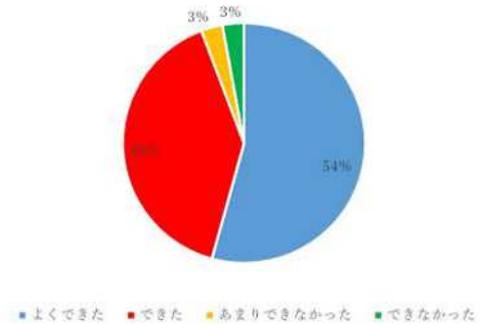
図工は好きですか？
 絵をかくことは好きですか？
 工作をすることは好きですか？
 図工の時間で、自分のよいところに気づくことができましたか？
 図工の時間で、ともだちのよいところに気づくことができましたか？



自分のよいところに気付くことができましたか



ともだちのよいところに気付くことができましたか



教科については 97%の児童が肯定的な回答をしていた。図画工作科に好意的な児童が多いととらえられる。

絵をかくことが好きな児童が87%、工作をすることが好きな児童は97%で、どちらも高めだが、工作の方が好きな児童が少し多いことがわかる。

「自分のよいところに気付くこと」ができた児童 86%、「友達の良いところに気付くこと」ができた児童については 94%であり、「自分」と比べると、「友達」のよいところに気づくことができている児童が多いという結果だった。

以上のことから、図画工作科に前向きな児童が多く、絵よりも工作を好む児童が多いことがわかった。一方で、友達とのかかわりの中で自分のよさを伸ばしていける児童を育てることが今後の課題であることがわかった。

(3) 指導観(教師の願いと指導の工夫)

研究アンケートより、「相手に伝わっているかどうか」についてAの回答が少なめになっていることが「自分を相対的に見つめることができるようになってきている発達段階」ともとれる。しかし、児童に「自分ならできる」という自己効力感が高まれば、より多くの子どもがAと回答するのではないだろうか。

また図工アンケートからも友達のよいところと共に、自分のよいところを伸ばし、自分のよさにも気が付くことができる児童を育てることも課題となっている。

本教材では、児童が絵よりも工作が好きであるという実態を踏まえ、工作分野である造形活動を通して「全体の中での自分らしさ」を表現し、みんなで1つの作品をつくり上げ、多くの人から認められることで、自己肯定感とともに自分の作品が「みんなの役に立っている」という自己有用感も育てることをねらう。

4年の「自分らしさをかけ合わせてさらに大きな力に」というキャリア教育の目標を、図画工作の作品という形で表し、子どもたちの成長と自信につなげたい。

5 キャリア教育の目標に迫るための手だて



自分のよいところを見つける力 【自分らしさ】

導入の楽器や演奏形式の実物・画像・動画、振り返り

- ・「自分らしさ」を表すイメージが見付けられるように、実際の音楽会のくくりにとらわれないような参考資料として、実物の楽器、動画、また様々な演奏形態の画像を提示する。
- ・友達のよさをみつけ、自己肯定感を高められるように、振り返りを行う。



次のことを考える力 【プラス1】

「音楽会もりあげ隊」ワークシート

- ・友達とのかかわりの中で、「自分らしさ」を表現するにあたり、発想の助けや、共有、学習意欲の継続につなげる。



みんなで学び聴く・伝える力 【かけ算】

友達との話し合い

- ・友達とのかかわりの中でよりよい表現になるよう、お互いの発想を伝えあったり、共有したりしながら造形活動に取り組めるようにする。

6 単元の指導計画・カリキュラムマネジメント（キャリア教育の目標に迫るための事前・事後指導の見通し）

教科 (時数)	学習活動	指導上の留意点	評価規準 キャリア教育の視点		
道徳科 (1) 「みんな 同じだっ たら」	<ul style="list-style-type: none"> 自分のもつ個性を大切にすることについて考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の特徴について、さまざまな見方で考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしさをどのように生かしていこうか考えている。 (ノート) 		
図画 工作 科 (10)	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音楽会もりあげ隊」についての事前調査をする。作りたい楽器や、友達とどんなことがしたいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会で担当する楽器と必ずしも同じでなくてよいことを確認する。 児童の意向をいかし、グループ分けをする 	<p>【主】学習活動に進んで取り組もうとしている。 (発言・ワークシート)</p> <p>【思】イメージを広げ、どのように表すか考えている。(発言・ワークシート)</p> <p>【技】基本の作り方を理解し、表している。 自分は、どんな人形や楽器を作りたいか考える。 (ワークシート) 自分で考えたことを意識し、友達と関わり合いながら、活動に取り組む。 (発言・ワークシート)</p>		
	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音楽会もりあげ隊」について知り、作りたい楽器や人形を自分で考える。 楽器(実物、動画、本)演奏形態(画像)教師による参考作品を、参考のため提示する。 友達とどんなことをしたいか考える。グループの話が出たら、児童の意向をいかし、グループ分けをする。 人形の基本の作り方を示し、うで、手(モール)を作る。 				
	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで、服や楽器などをどのように工夫して作るか話し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにかきながら、発想を広げたり、イメージを共有したりする。 	<p>【思】イメージを広げ、どのように表すか考えている。(発言・ワークシート)</p> <p>【技】基本の作り方を理解し、表している。(作品) 自分で考えたことを意識し、友達と関わり合いながら、活動に取り組む。 (ワークシート)</p>
	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 人形の基本の作り方を示し、頭(軽量粘土)体(空き容器、紙コップ等)を作る。 体の作り方については、教師の見本を示し、参考にするようにする。(長ズボン、ロングスカート、半ズボン、ミニスカート、座るとい主に5タイプ) 				
<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> 人形の基本の作り方を示し、髪の毛(毛糸)を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な身近な材料を用意し、選んで作れるようにする。 必要に応じ、タブレット等で楽器を調べ、参考にする。 	<p>【思】材料をいかし、どのように表すか考えている。(ワークシート・作品)</p> <p>【技】身近な材料で、形や色を工夫して楽器を表している。(作品) 自分で考えたことを意識し、友達と関わり合いながら、工夫して作る。 (作品)</p>			
<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な材料で形や色を工夫して人形の楽器を作る。 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして、作る。 実物の楽器や、画像、本などを参考にする。 半ズボンやミニスカート等を作る児童は、参考作品をもとに、足など工夫して丈夫に作る。 					

7 本時 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料で形や色を工夫して人形の服を作る。 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして、工夫して人形の服を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までのワークシートをもとに、自分で考えたことや、友達と考えたことをいかしながら、作る。 	<p>【思】材料をいかし、どのように服を表すか考えている。(作品)</p> <p>【技】身近な材料で、形や色を工夫して人形の服を表している。(作品)</p> <p>自分で考えたことを意識し、友達と関わり合いながら、工夫して人形の服を作る。(作品)</p>
8 . 9 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料で形や色を工夫して人形の楽器や服を作る。 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして、工夫して作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかしながら、作る。 	<p>【技】身近な材料で、形や色を工夫して楽器や服などを表している。(作品)</p> <p>自分で考えたことを意識し、友達と関わり合いながら、工夫して人形の楽器や服を作る。(作品)</p>
10 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの人形を見て、よさを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> できあがった作品全体を見て、自分のよさ、友達のよさを実感できるようにする。 	<p>【表】自分や友達の発想、表し方の工夫や違いに気付く、見方や感じ方を広げている。(発言・ワークシート)</p> <p>お互いの作品のよさを伝え合う活動を通して、自己肯定感を高める。(ワークシート)</p>
音楽会前	<ul style="list-style-type: none"> 「音楽会もりあげ隊」を展示し、全校児童に見てもらう。 		<p>展示を通して、皆に見てもらうよさを実感する。</p>
音楽会	<ul style="list-style-type: none"> 練習してきた合奏・合唱の成果を発表する。 「音楽会もりあげ隊」の写真を掲示し、保護者に見てもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会に主体的に参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会で演奏・合唱をすることを通して、自分のよさや友達のよさに気付く。 写真の展示を通して、保護者に見てもらうよさを実感する。

7 本時について（7 / 10時間）

（1）本時の目標

身近な材料で形や色を工夫して人形の服を作る。



本時のキャリアの目標（集団の中で自己を生かせるように）

自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして、工夫して人形の服を作る。

（2）本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 評価規準（評価方法） キャリア教育の目標に迫るための手だて
導入 	<p>・形や色を工夫して、人形の服を作ろう。</p> <p>・自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして作ろう。</p>	<p>・事前に、ワークシート、前時で作った人形などを配る。</p> <p>・活動しやすいように、グループごとの座席で座る。</p>
	<p>1 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして服を作ること、基本の方法（ペンで色をぬる・布を貼る・他の材料で工夫することなど）を、確認する。</p> <p>前時まで、グループで考えたことをワークシートを見ながら確認する。</p> <p>○服を作ることに、グループのみんなと考えたことを確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に考えた、この模様の服にしよう。 ・スカートは、この色の布をはろう。 	<p>学級やグループの中の自分らしさを意識しながら活動に取り組めるように、前時まで、自分で考えたことや、友達と考えたことを、ワークシートを見ながら確認するようにする。</p> <p>・袖は、布を巻くようにして木工用接着剤で貼ることを基本の方法とする。</p>
展開  	<p>2 自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして、自分の人形の服を作る。</p> <p>○自分で考えたことや友達と考えたことをいかし、工夫して、人形の服を作りましょう。</p> <p>○身近な材料をいかして、工夫して作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に考えたおそろいの服を作ろう。 ・違う色の服で、おそろいのマークをつけよう。 ・どんな材料で作ろうかな。 ・また新しいことを思いついたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と相談したいときは、仲良く相談するようにする。また新しいアイデアを取り入れる際は、グループの皆で相談して決められるようにする。 ・児童の良い発想や技能、友達と考えたことでより良い表現になったことをほめる。 ・布の切り方、袖の接着など、必要に応じ支援する。 <p>ワークシートを活用して、自分が考えたこと、友達と考えたことを生かして表現できるようにする。</p> <p>【思】材料をいかし、どのように服を表すか考えている。（作品）</p> <p>【技】身近な材料で、形や色を工夫して人形の服を表している。（作品）</p>

まとめ	<p>3 ワークシートを書いて振り返り、共有する。</p> <p>○ワークシートを書いて振り返りましょう。</p> <p>○片付けをしましょう。</p>	<p>自分で考えたことや友達と考えたことを意識し、工夫して作れたか振り返り、共有する。(ワークシート)</p> <p>【主】自分で考えたことや友達と考えたことが作品作りにいかせたか、振り返りをしている。(ワークシート)</p>
-----	--	---

(3) 材料・用具・場の設定 (本時で特に扱うものに、下線)

- 教師 : ワークシート・布・不織布・ペン・木工用接着剤・リボン・モール・ひも・片面ダンボール・ペットボトルキャップ・ビニールテープ・紙粘土・空き容器・紙コップ・コピー用紙・毛糸・色画用紙・黄ボール紙・白ボール紙・テグス・段ボールなど
- 児童 : 筆箱・のり・はさみ・毛糸・絵の具セット・必要に応じ楽器・タブレット
- グループごとに座る。

(4) 板書計画

音楽会もりあげ隊




- ・形や色を工夫して、人形の服を作ろう。
- ・自分で考えたことや、友達と考えたことをいかして作ろう。

グループでかくにん。

きほんの方法をもとに、工夫して作る。

- ・ペンで色をぬる。 ・布をはる。 ・他の材料で工夫する。

そで：布をまいて、木工用せっちょくざいではる。

ふりかえり。

9 研究協議の視点

- ・「音楽会もりあげ隊」のワークシートは、友達とイメージを共有して造形活動に取り組むことに効果的だったか。また、個人の発想や話し合いの内容を見取るための手立てとして有効であったか。
- ・相談を取り入れた造形活動は児童の創作意欲を高めることに有効だったか。
- ・個々のよさを掛け合わせ、みんなで1つの作品をつくり上げるという本教材は、キャリア教育を念頭に置いた図画工作科の学習計画として、自己肯定感が高まることに繋がったか。

10 ワークシート

音楽会もりあげ隊 ワークシート

○音楽会もりあげ隊のための人形を、自分でデザインしてみよう。

顔は？



・髪は？
 ・下半身は？
 (○をつけてよう)
 ・髪型(例)
 ・ロングスカート
 ・Tシャツ
 ・スウェーカー
 ・その他

かみかみ・
 かみの長
 の色は？

・顔は？
 ・下半身は？
 (○をつけてよう)
 ・髪型(例)
 ・ロングスカート
 ・Tシャツ
 ・スウェーカー
 ・その他

えんすりの
 カツキは？

・ポーズは？
 (○をつけてよう)
 ・立つ
 ・しゃがむ(イス)

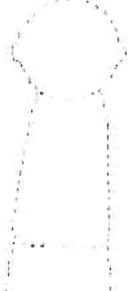
工夫したところ | *人形の持ちよう・音楽会をどうやって盛りあげたいかな？

グループのメンバー |

○どんな工夫ができるか、友達と考え、話し合ったことを書いてみよう。

○友達と話した内容をまかし、自分の人形をデザインしてみよう。

顔は？



・顔は？
 ・下半身は？
 (○をつけてよう)
 ・髪型(例)
 ・ロングスカート
 ・Tシャツ
 ・スウェーカー
 ・その他

かみかみ・
 かみの長
 の色は？

・ポーズは？
 (○をつけてよう)
 ・立つ
 ・しゃがむ(イス)

えんすりの
 カツキは？

○友だちのアイデアの上から1つとところを書こう。

さん	
さん	
さん	

音楽会もりあげ隊 ふりかえりワークシート

◆自分で考える・グループ決め 10月__日 1回目ふりかえり(○をつけよう)

自分で考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △
--------------------------	-------

◆グループで考える・基本の形作り 10月__日 2回目ふりかえり

自分で考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △
アイデアを友達に伝えたり、聞いたりできた。	◎ ○ △
友達のをよさを見つけて、伝えることができた。	◎ ○ △

◆グループで考える・基本の形作り・楽器作り 10月__日 3回目ふりかえり

自分で考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △
アイデアを友達に伝えたり、聞いたりできた。	◎ ○ △
友達のをよさを見つけて、伝えることができた。	◎ ○ △

◆服作り 10月__日 4回目ふりかえり

自分で考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △
友達と考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △

◆楽器・服作り 11月__日 5回目ふりかえり

友達と考えたことをいかし、工夫することができた。	◎ ○ △
友達の作品のをよさを見つけて、伝えることができた。	◎ ○ △

音楽会もりあげ隊 ワークシート(まとめ)

4年 組 名前

○できた人形について、しょうかいしてみよう。

しょうかいしたいこと | *人形の持ちよう・音楽会をどうやって盛りあげているのかな？

○友だちの作品のよいところを見つけて書こう。

さん	
さん	
さん	

◆ふりかえり(○をつけよう)

自分の工夫したところを、伝えられた。	◎ ○ △
友達の作品のをよさを見つけて、伝えることができた。	◎ ○ △

◆ふりかえり *「音楽会もりあげ隊」の授業の感想。友達と取り組んでどうだったかな？
